

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 つくば市

自治体名：茨城県つくば市

担当課名：学び推進課

電話番号：029-883-1111

1.自治体の基本情報

基本情報（R6.4時点）

面積	283.72 km ²
人口	約255,000人
公立中学校数	18 校
公立中学校生徒数 (市立中学校・義務 教育学校生徒数)	6,621 人
部活動数	238部活
市区町村の協 議会・検討会議 等の設置状況	関係部局を巻き 込んだ会議設置 へ向け調整中
市区町村の推進 計画・ガイドライン 等の策定状況	推進計画策定へ 向け調整中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

・つくば市では、令和6年度当初、すべての公立中学校、義務教育学校で部活動の地域展開の準備が始まった段階であった。各学校の実情に応じて地域展開の担い手となる指導者や運営団体を探していたが、なかなかマッチングが難しい状況であった。地域展開を持続可能なものにするためには、学校や保護者への理解周知の強化、困窮家庭への補助、多様なスポーツ経験の機会、指導者への研修、指導者の確保、受け皿となる運営団体の創出等実施すべき課題がたくさんあった。また、地域に大学施設があるにもかかわらず連携や協力体制が十分にできていない状況であった。

・担い手や運営団体の確保が重要な課題であり、筑波大学の学生や筑波大学の競技団体の協力が必要不可欠と考える。そのような中、コーディネーターを中心として大学や競技団体との連携を図り、指導者の確保や育成体制の整備、学校とのマッチングを進めることが求められる。また、持続可能な運営のための財源確保も課題となる。これらを踏まえ、行政・教育機関・地域団体が協力し、円滑なマネジメント体制の構築し、持続可能な仕組みにすることが求められる。



<TX沿線研究学園都市エリア>

人口が増えており、若い世代を中心として新しく移り住んできた家庭が多い

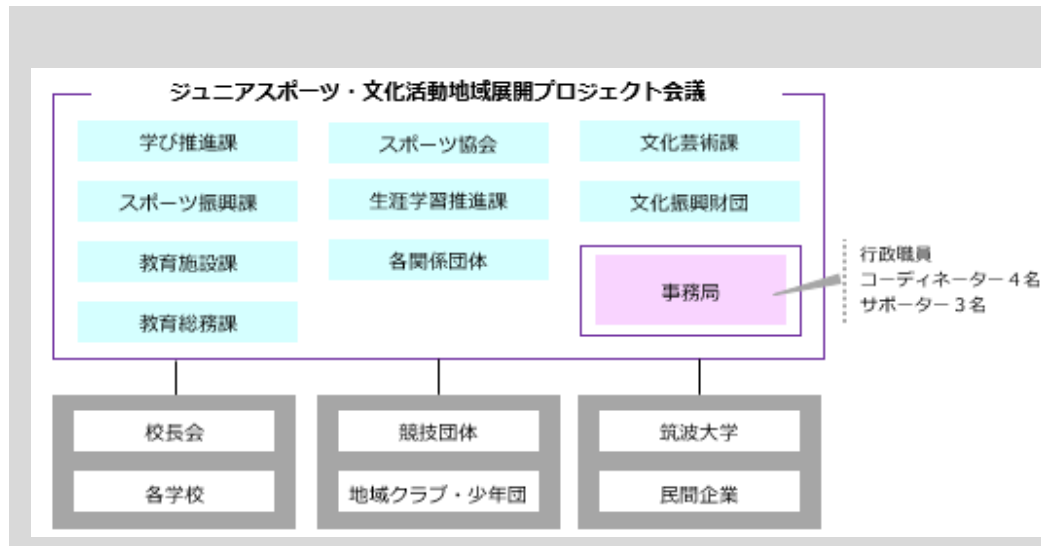
<それ以外のエリア>

人口の増加は少なく長く住まれている家庭が多い

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育局学び推進課

- ・部活動改革全般の統括部署として方針の策定
- ・各学校への周知連絡、訪問打ち合わせ、地域移行活動の推進

◎市長部局・各部局

- ・教育委員会の策定した方針を踏まえた地域展開推進に向けた支援と助言
- ・外郭団体のスポーツ協会を中心に地域スポーツ少年団との連携
- ・指導者育成のマニュアル作成（次年度より想定）

年間の事業スケジュール

地域スポーツクラブの発掘・マッチング及び学校との連携

令和6年 4月 各クラブへ打診

令和6年 6月 事業の開始+情報の共有

令和6年11月 地域展開に関するアンケートの実施

令和6年12月 アンケートの分析・検証

令和6年随時 保護者説明会の実施

令和6年随時 毎月の月報の確認

大会の実施

令和6年7月 ソフトテニス大会

令和6年11月 ソフトテニス大会

令和7年1月 バレーボール大会

令和7年2月 バスケットボール大会

筑波大学との連携

令和6年随時 筑波大との情報共有

令和6年11月 筑波大学マルチスポーツ体験

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	18 校	実施した地域クラブ総数	13 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		13 クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	約30 人	全体の運営スタッフ数	約10 人

②各クラブに関すること(一部記載)

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
茨城GT ベースボールクラブ	新設 地域 クラブ	野球	月 4 回／ 週 1 回	土曜日 AM	7年生 8年生 9年生	4月～	高山中 グラウンド	4 人	3 人 (保護者)	月会費 2,000円	中体連： 部活動
春日グリーン デビルズ	スポーツ 少年団	バスケット	月 8 回／ 週 2 回	木曜日 土曜日	7年生 8年生 9年生	4月～	春日 学園 体育館	3 人	3 人 (兼務)	月会費 3,000円	中体連： 部活動
Do Soccer Club	民間 クラブ	サッカー	月 3 回／ 週 1 回	土曜日 (隔週)	7年生 8年生 9年生	11月～	竹園 東中 グラウンド	2 人	10 人 (民間のため 多数)	月会費 2,200円	中体連： 部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 多様なニーズに対応した市独自の地域クラブ対象の大会の開催（計5回）
- 施設活用のため全校の学校体育施設の鍵の作成

2.実証内容と成果

主な取組例

●竹園東地域サッカークラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	Do Soccer Club
期間と日数	サッカー：12月1日～月3～4回
指導者の主な属性	Do Soccer Club所属コーチ
活動場所	竹園東中学校グラウンド
主な移動手段	各自徒歩＋自転車
1人あたりの参加会費等（月額）	2,200円（月）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年 ※別途初回費として

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- ・統括責任者
役割：代表として保護者説明会など実施する
- ・主任指導者 2名
役割：毎回の指導や指導計画を作成する
- ・事務員 2名
役割：運営事務局の業務を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

部活動地域展開コーディネーターを4名配置し、その活動をサポートする地域展開サポーターを3名配置している。

＜詳細＞

統括コーディネーター1名

…全体統括、方針策定

コーディネーター3名

…学校訪問、保護者説明会

…学校とクラブのマッチング

…資料作成

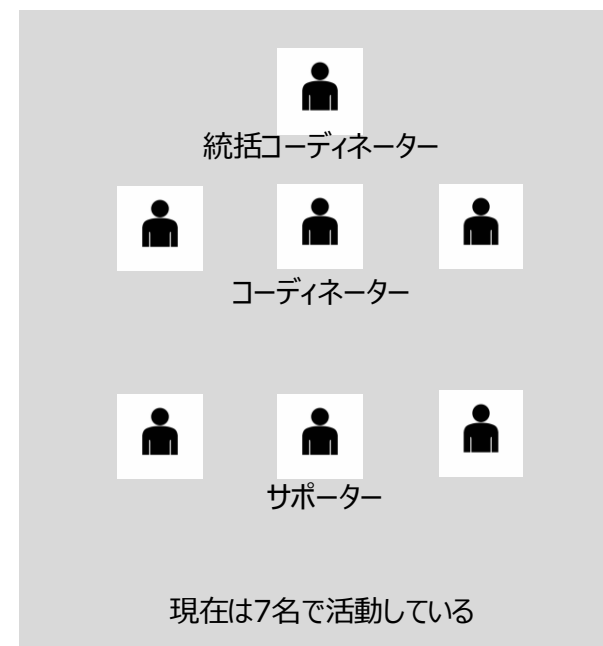
サポーター3名

…事務処理、資料作成等

取組の成果

教育委員会内にコーディネーターを配置し、左記のような役割を分担して活動した。

- ・中体連の会議での説明や月の1度の学校訪問を実施
- ・学校からの要望や受け皿となる新たな運営団体に関する情報があれば随時訪問を行った。
- ・学校とクラブのマッチングは、昨年度から比べ移行種目が2倍に増加した。
- ・週1回行うコーディネーター連絡会議にて、進捗状況や運営団体及び少年団の情報共有や学校からのヒアリングに基づく方策を立てマッチングを進めた。



コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・各学校を訪問し、市の方針を伝え、各学校の動きを支援
- ・スポーツ少年団へ訪問し地域移行受入を依頼
- ・学校と運営団体をマッチングし、保護者会や活動開始への支援
- ・市内部局横断の連携を模索し、各部・各課へ依頼に訪問

今後の課題と対応方針

- ・教育委員会内での専属職員の配置を含めた組織体制や首長部局と連携した、部横断型の組織体制を強化し地域展開を推進していく。
- ・コーディネーターは部活動地域展開における調整役として不可欠な存在であり、今後は役割の明確化、人材育成、持続可能な支援体制の視点からより実効性のある仕組みをと整えていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

スポーツ協会との連携

- ・地域スポーツ大会の実施
- ・スポーツ協会と連携し、少年団と学校のマッチング

筑波大学・関係団体等との連携

- ・市内の子ども、保護者への部活動改革に関するアンケート調査を業務委託
- ・分析、効果検証
- ・マルチスポーツ事業での連携

取組の成果

○スポーツ協会と連携し、下記2点について重点的に取り組んだ。

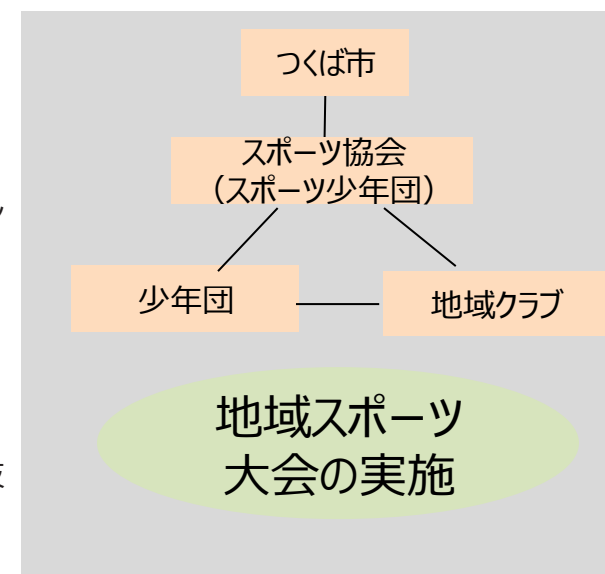
- ・中体連に替わる市内独自多様なニーズに対応した大会実施〔ソフトテニス・バレーボール・バスケットボール〕

ソフトテニスでは、個人にポイントが紐づくイロレーティング方式を採用したダブルス戦を実施。

- ・地域移行を受け皿（運営団体）となるクラブは令和5年度の8チームから令和6年度は18チームへ拡大。

○市内にある大学機関（筑波大学）の利点を生かした連携

- ・大学に所属する競技団体との連携（ソフトテニスクラブ、陸上競技クラブ）
- ・マルチスポーツ事業での連携



大会運営の実績

- ・大会運営事業をスポーツ協会が主催。運営や指導者への謝金、実経費に充て計5回の大会を実施した。
- 連携先として、地域スポーツ少年団やエンボス企画にも参画していただき、横展開できる体制を構築した。

マルチスポーツ事業について

- ・筑波大学体育スポーツ局の実施するマルチスポーツ事業と協力して、マルチスポーツ体験会の実施やイベントへの後援を行った。
- フェアには多くの子どもたちと大学生が参加し、様々な種目を体験することで、双方にとって有意義な機会となった。

今後の課題と対応方針

スポーツ協会との連携をさらに強化し、地域移行を推進していく必要がある。また、企業や関係団体との連携の在り方を検討する。

例：拠点校型地域展開の実施

例：地域企業連携型の運営

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

その他取組事項

- 旗・のぼり の作成 → イベントや大会に利用できる旗とのぼりを制作、大会で使用した。
- 救急セット一式の準備 → イベントや大会の際の緊急対応として準備した。
- 学校体育施設の鍵の準備 → 次年度以降にも使えるように各学校の地域移行用の鍵の費用を負担した。
- 地域移行周知促進のための動画コンテンツの作成及びパンフレットの作成 → 広報活動の使用した。

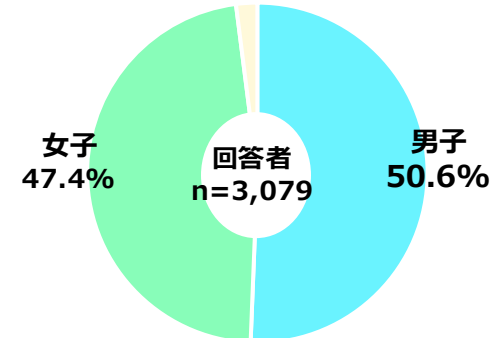
アンケート実施

- 子どもの生活や活動の実態、部活動改革に関する認識、ニーズのある活動環境の把握などを目的にアンケート調査を実施。

- つくば市の全小中学校・義務教育学校にアンケート実施を行った。50項目程度の質問を行ったが、ここでは顕著な結果を一部抜粋して掲載。

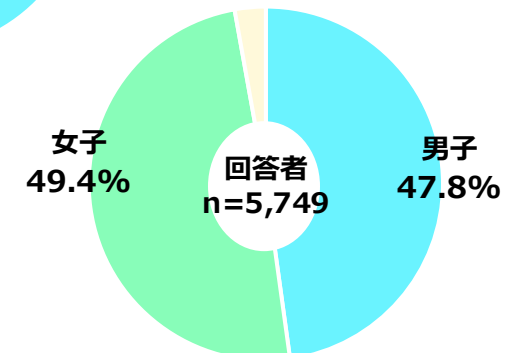
～中学生～

生徒回答者数 3,141名	保護者回答者数 1,432名
同意する：3,079名 (98.0%)	同意する：1,428名 (99.7%)
同意しない：60名 (1.9%)	同意しない：4名 (0.3%)
回答無効：2名 (0.1%)	



～小学生～

生徒回答者数 5,782名	保護者回答者数 2,430名
同意する：5,649名 (97.7%)	同意する：2,427名 (99.9%)
同意しない：131名 (2.3%)	同意しない：131名 (0.1%)
回答無効：2名 (0.03%)	

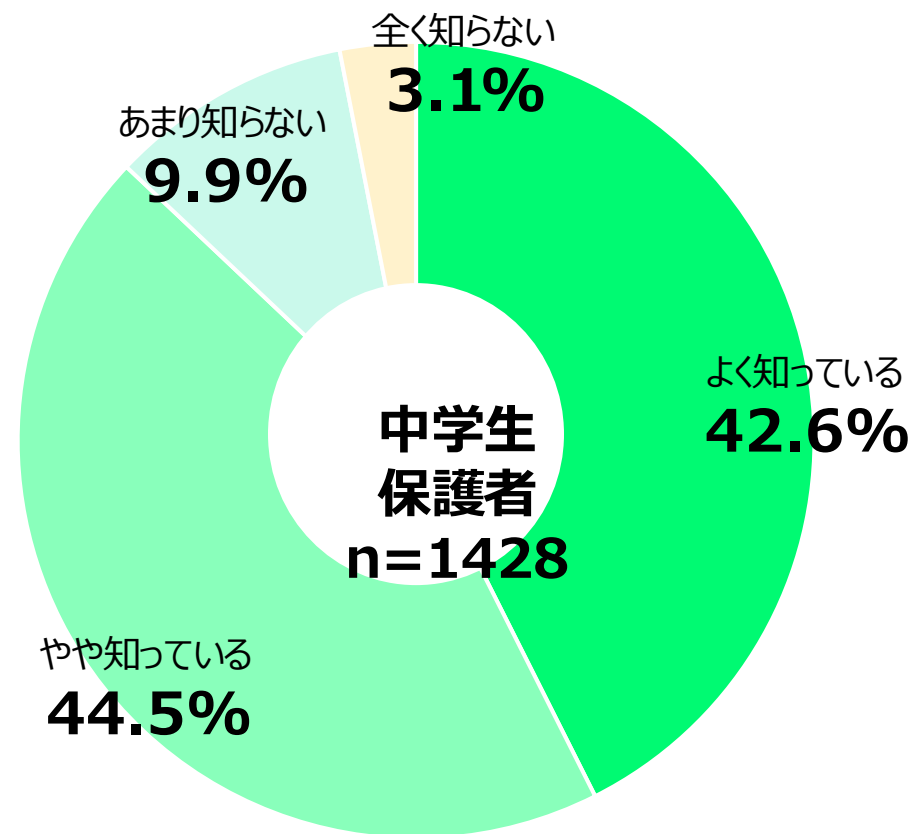
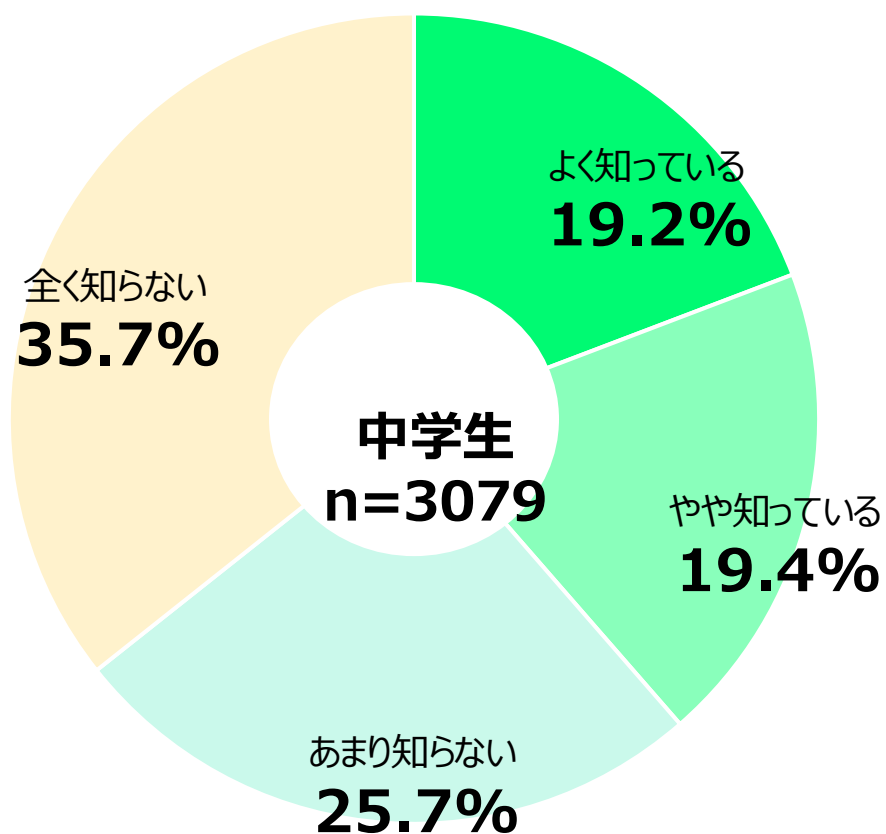


2.実証内容と成果

アンケート結果

●アンケート結果（中学生：生徒・保護者）

Q. 現在、スポーツ庁・文化庁では、令和7年度末を目標に休日（土日、祝日）の部活動の地域移行を推進しています。そのことについて知っていますか？

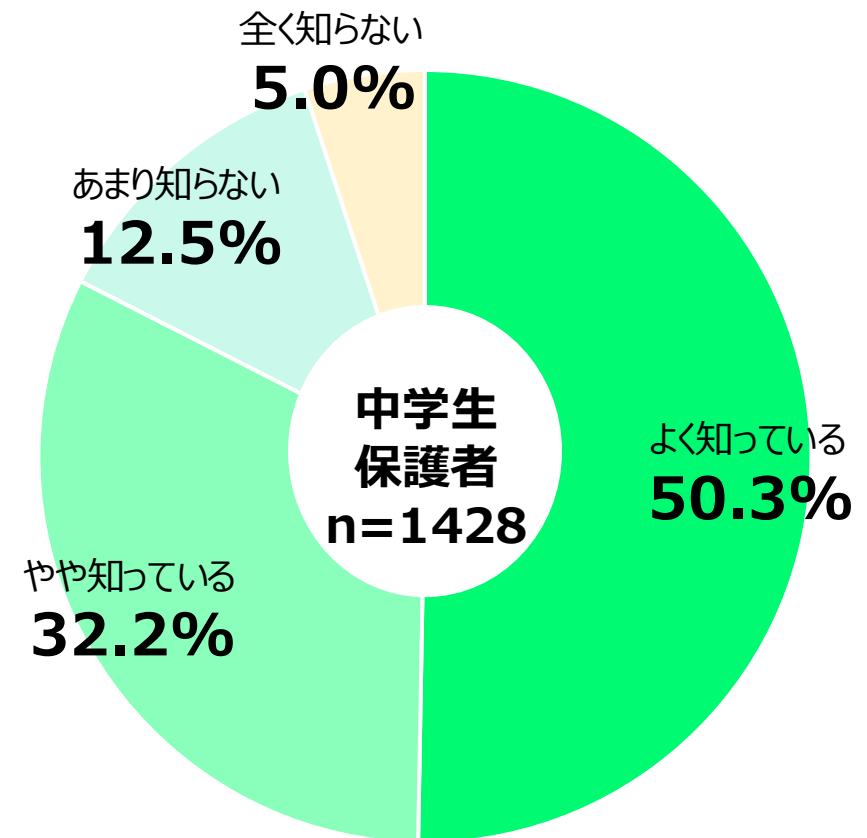
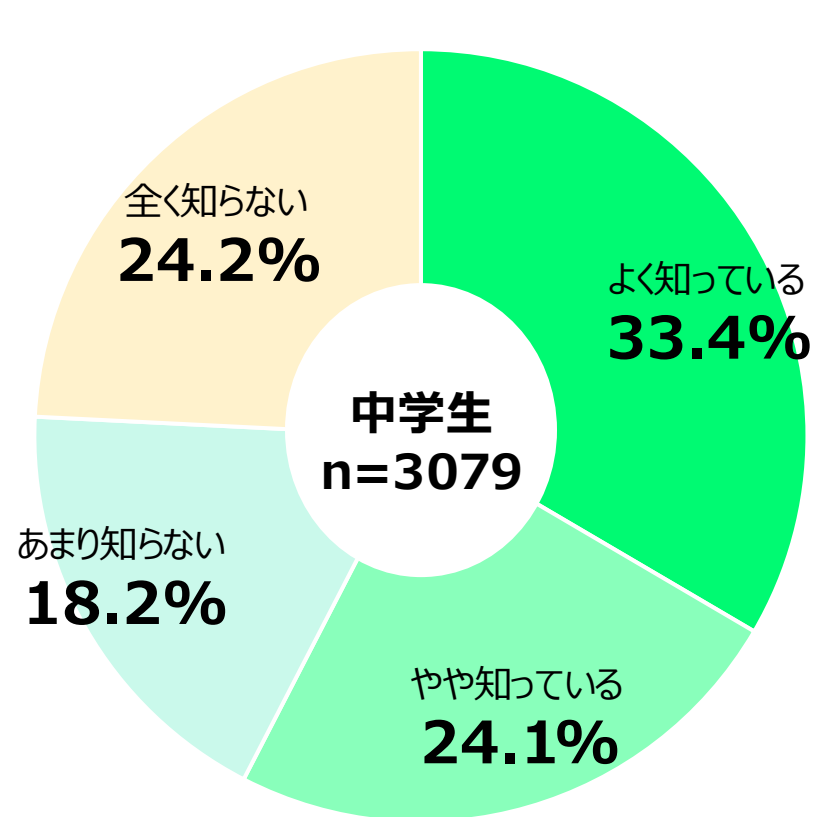


2.実証内容と成果

アンケート結果

●アンケート結果（中学生：生徒・保護者）

Q. 先生方の夕方や休日の指導には、全国的にはほとんど給料が出ていないことは知っていますか？

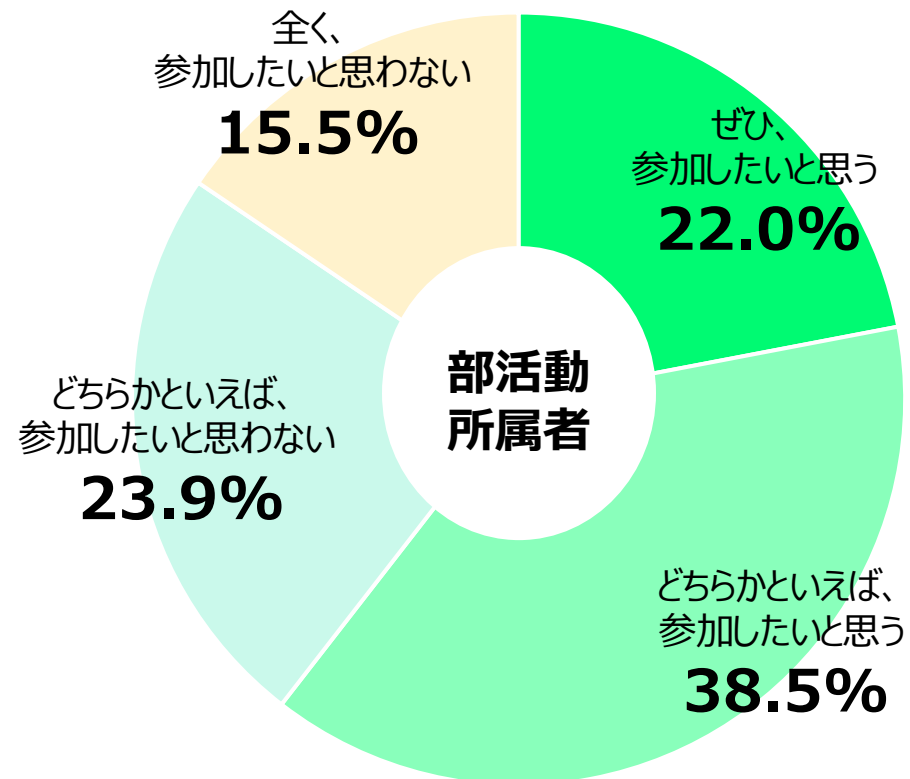


2.実証内容と成果

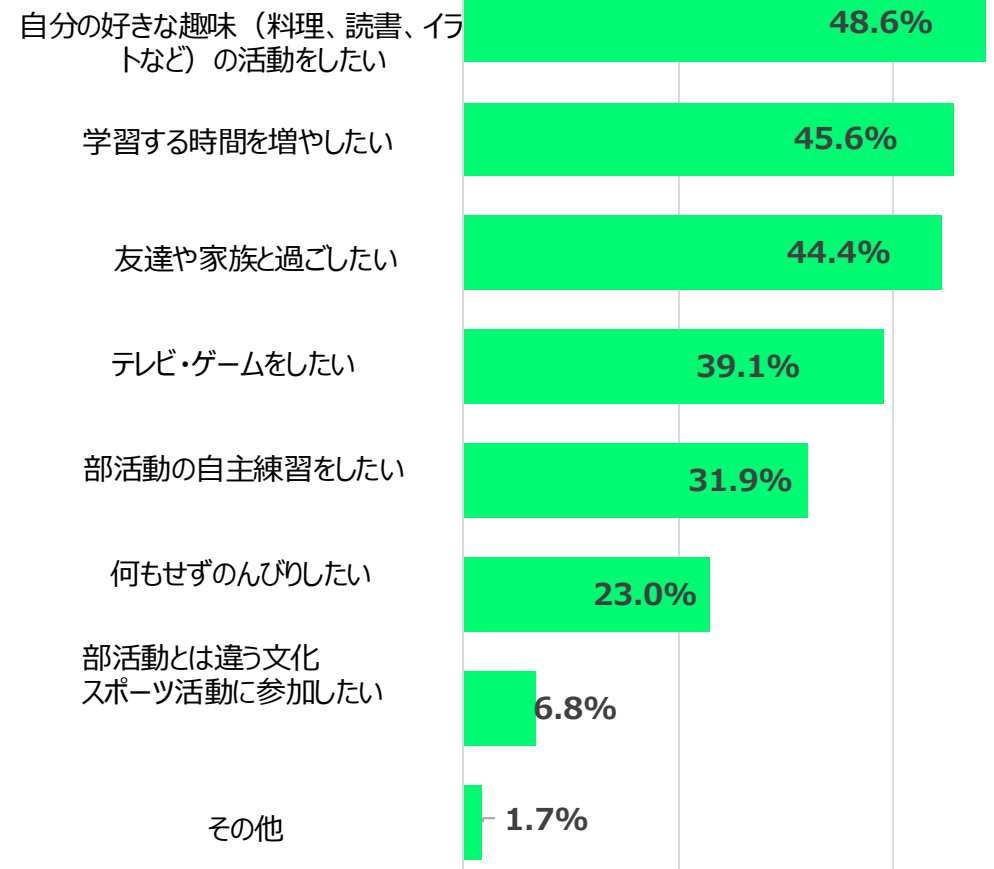
アンケート結果

●アンケート結果（中学生：生徒・保護者）

Q. もし、週1回（土日どちらか一日）部活動の代わりに地域で文化・スポーツ活動を行うことができるとしたら、参加したいと思いますか？



Q. もし、現在の部活動の活動量（時間や日数が今より少なくなったとしたら、その時間で何がしたいですか？（複数回答可）

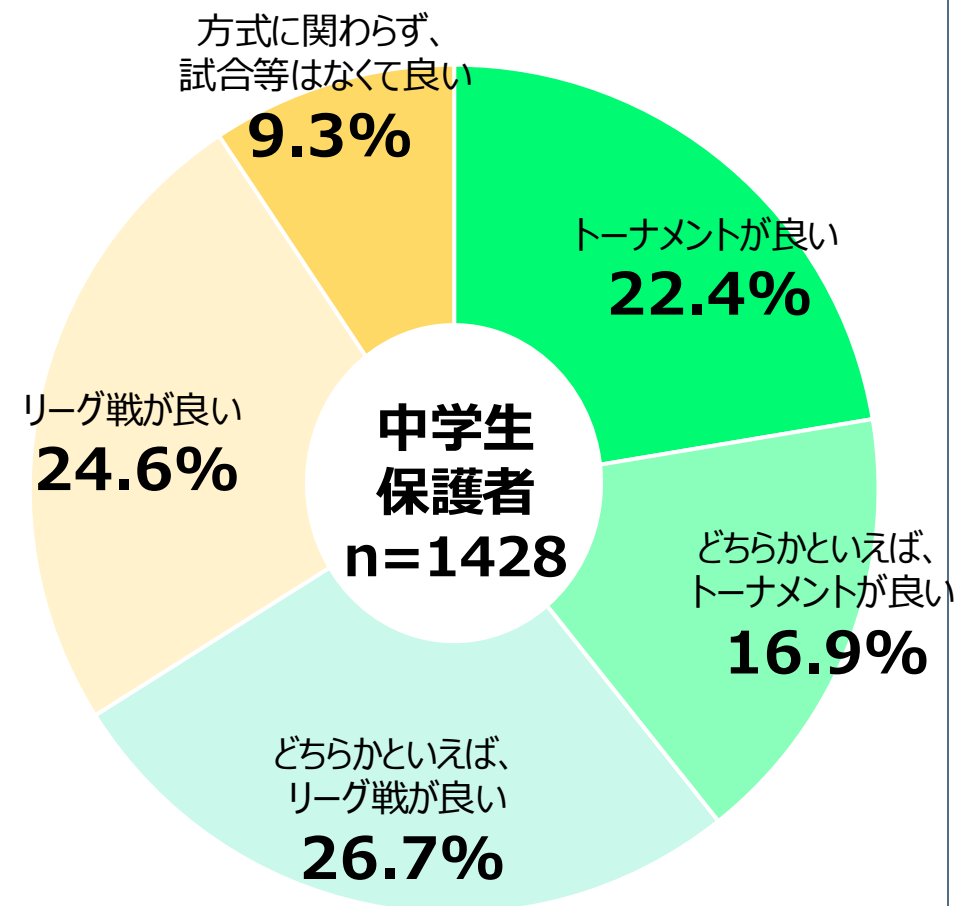
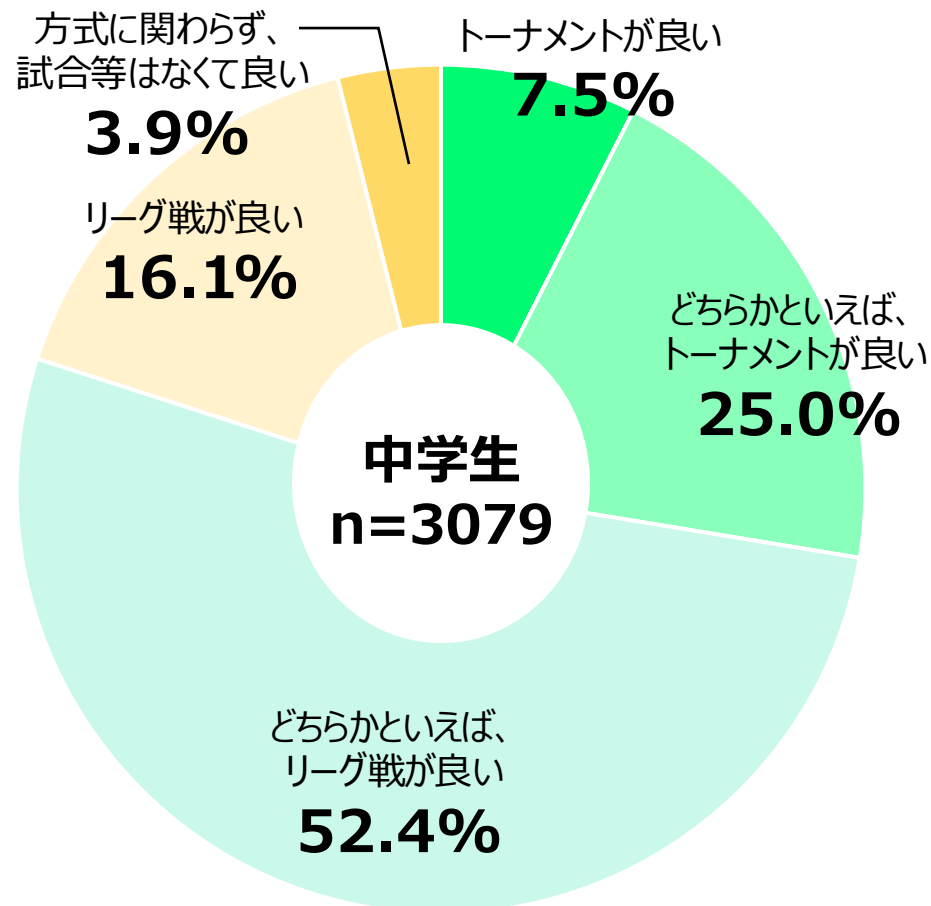


2.実証内容と成果

アンケート結果

●アンケート結果（中学生：生徒・保護者）

Q.参加するスポーツ等の大会（競技会）の方式として、トーナメント方式（勝つと次の試合ができる）と、リーグ戦方式（勝敗に関わらず数試合できる）と、どちらが良いと思いますか。

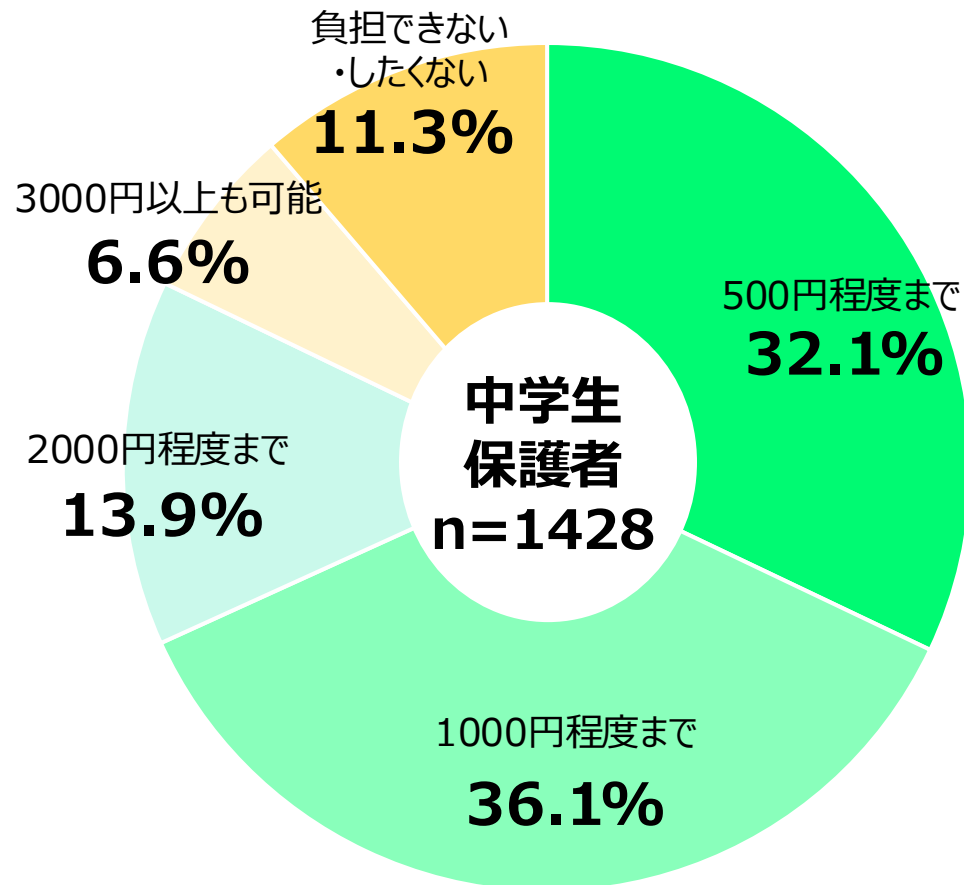


2.実証内容と成果

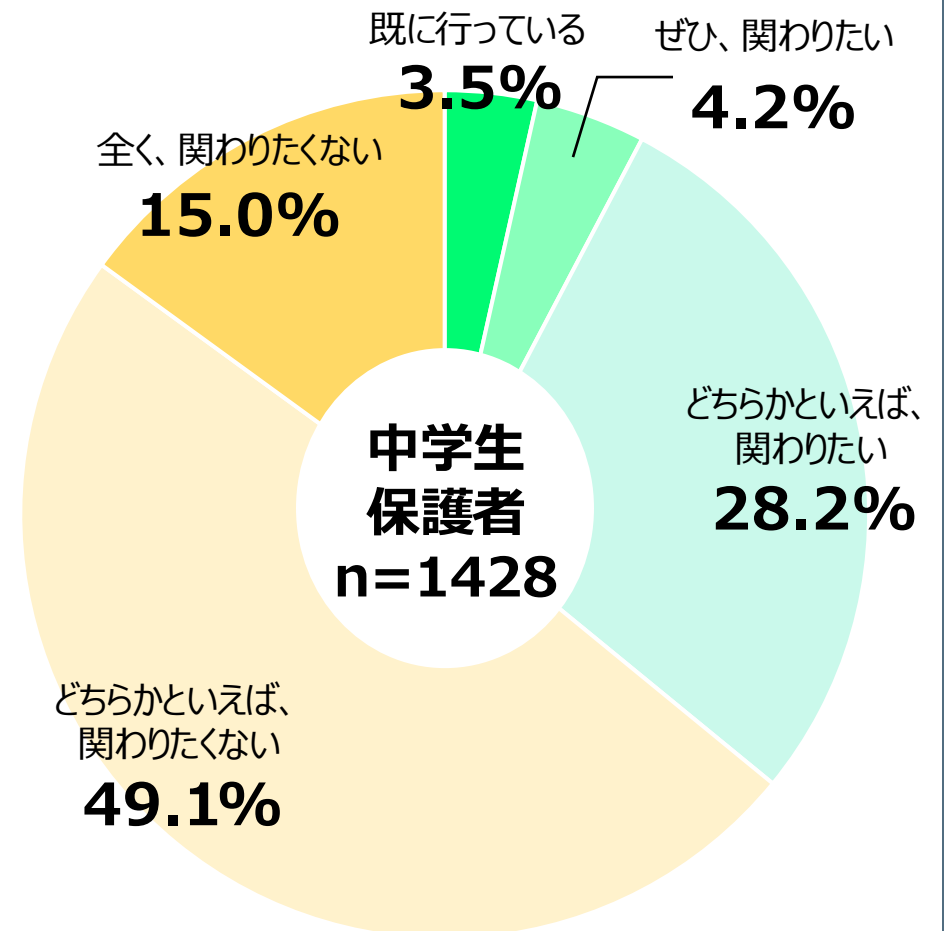
アンケート結果

●アンケート結果（中学生：生徒・保護者）

Q.もし、週一回（土日のどちらか一日）、部活動の代わりに地域で文化・スポーツ活動を行うことができるとしたら、1回あたりいくらくらいを負担できますか？



Q.お願いされたら、地域の文化・スポーツ活動に指導者や見守り、サポーターとして関わりたいと思いますか？



アンケート結果

●アンケート結果の考察（中学生／保護者）

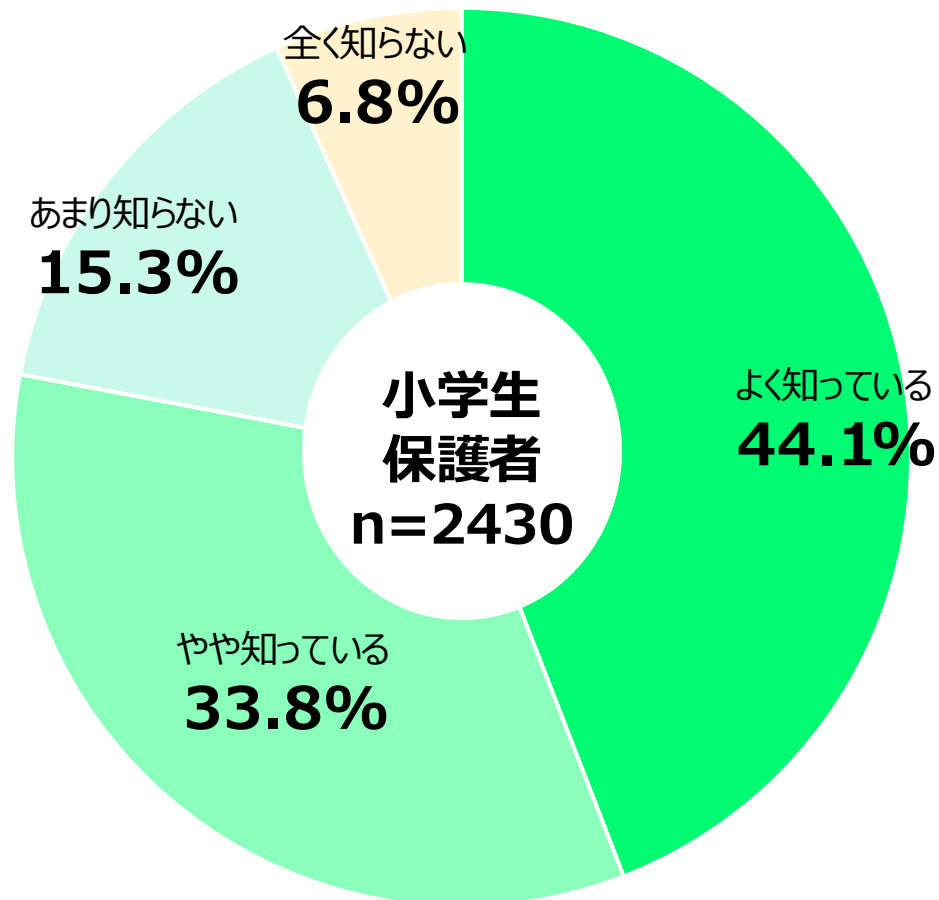
- 教員の部活動指導にほとんど給与が出ていないことを知っている生徒は少ない。学校ではスポーツ指導は無料で受けられるという意識が強い。マルチスポーツの観点に関しては、中学生はすでに学校の部活動に満足しているケースも見られるため、新しい体験には消極的である。アンケート結果から、部活動を減らし中学生にもっと時間を与えた場合、他のスポーツに参加するよりも自分の時間を過ごす子どもが一定数でできることが想定され、スポーツ離れ運動離れに繋がる可能性は高い。
- 試合の形式について、アンケート結果では生徒保護者共にどちらかといえば“リーグ戦”を希望していることがわかった。トーナメント方式よりも、リーグ戦方式の方が試合数が増え、交流という視点からも楽しむ機会が増え、出場機会も増える可能性がある。一部試合はなくて良いという保護者の意見もあった。上位大会を目指したい層と、健康に身体を動かしてほしいと思う層が部活動には混在していることもアンケート結果からわかった。
- 受益者負担についての回答では、1回の活動による負担額は1,000円以内が6割程度だった。思っていたよりも高い金額を払ってもよいという家庭が多かった。
- 最後のアンケートグラフであるが、保護者自らが地域スポーツチームの指導や運営に関わりたいか？という問いに対しては、後ろ向きな回答が目立った。つくば市内の保護者は地域にもよるが、どちらかというと共働き世帯が多く、特に平日は子どもたちの指導を行う時間がないことが考えられる。言葉を選ばずに言えば学校の部活動が“子どもを預かってくれる”機能を果たしていた可能性も高い。今後の地域スポーツ活動を考えると、この保護者の意識を変え地域全体で子どもたちの活動を支えていく体制を作っていくことが急務であると考え。

2.実証内容と成果

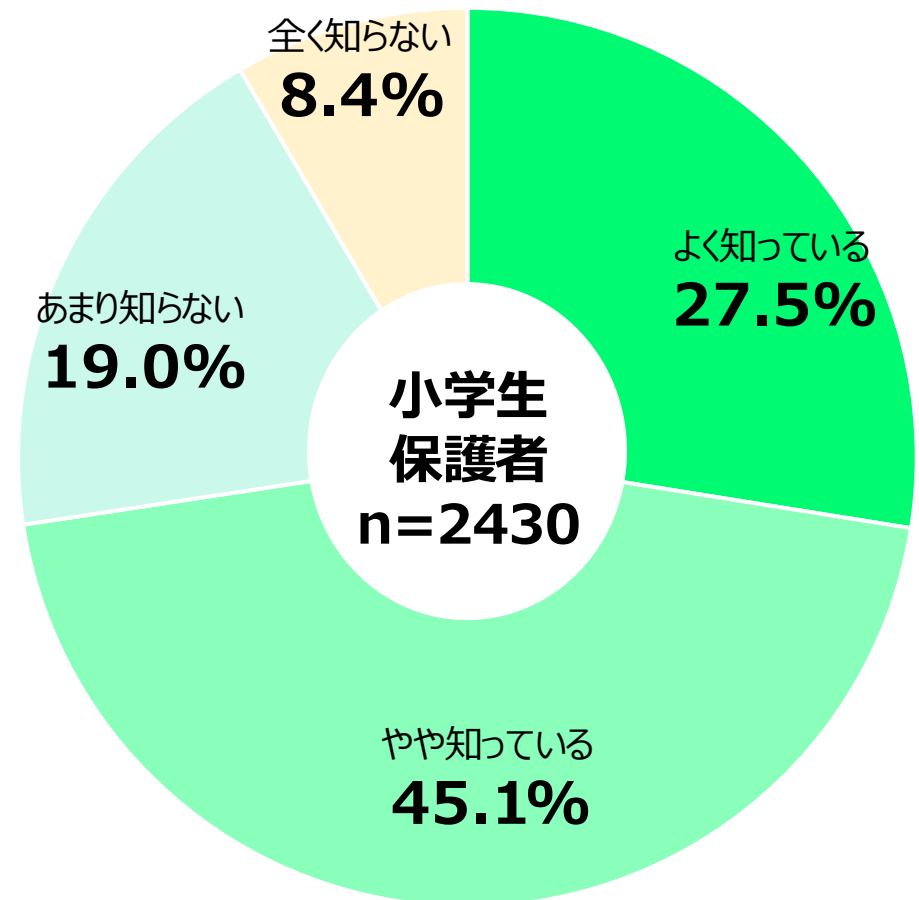
アンケート結果

●アンケート結果（小学生：児童・保護者）

Q.中学校の部活動を指導する教職員は通常の業務以外で行っています。
教職員の夕方や休日の指導には、全国的にはほとんど給料が出ていない
ことは知っていますか。



Q.現在、スポーツ庁・文化庁では、令和7年度末を目標に休日（土日、祝
日）の部活動の地域移行を推進しています。
そのことについて知っていますか？

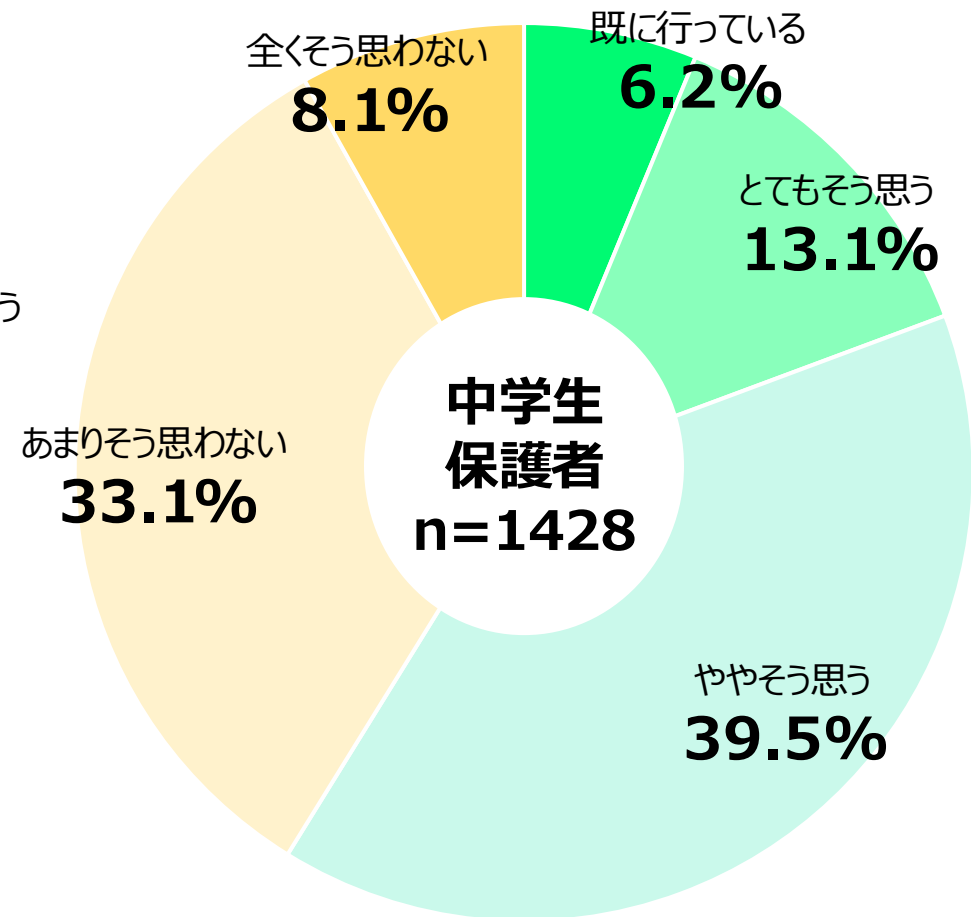
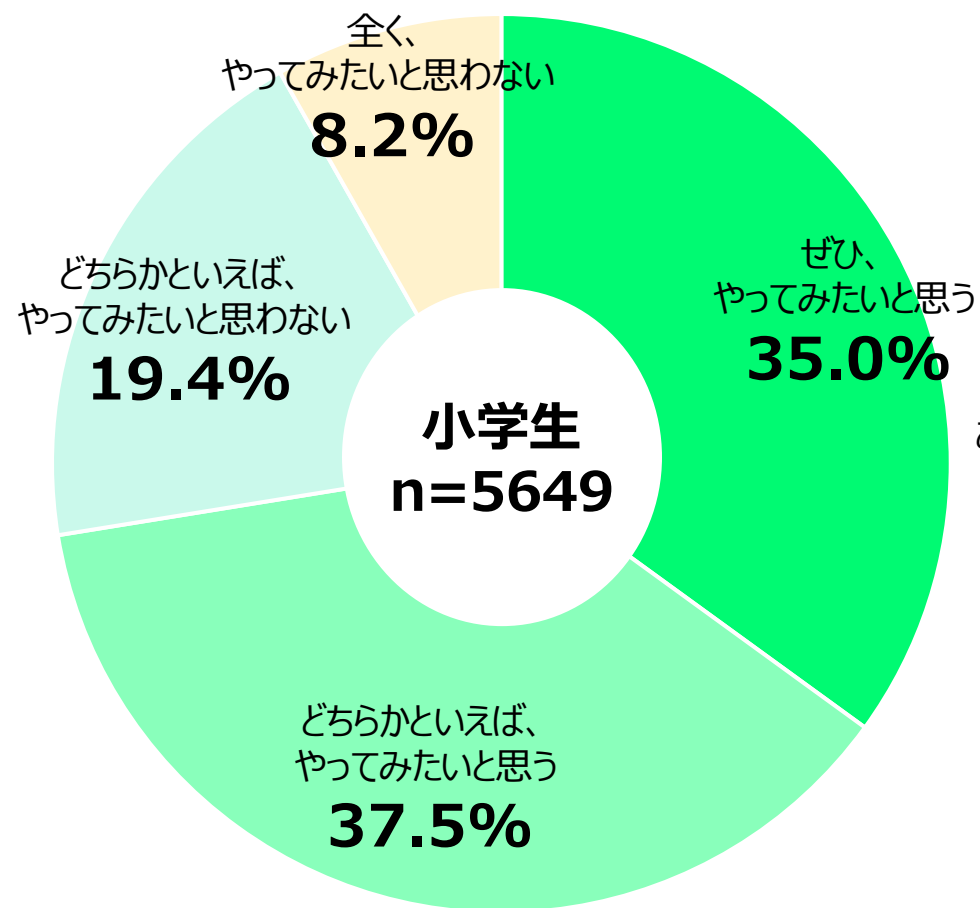


2.実証内容と成果

アンケート結果

●アンケート結果（小学生：児童・保護者）

Q. 参加する種目（活動）を一つに絞るのではなく、2つ以上の種目（活動）を経験したい・させたいと思いますか？

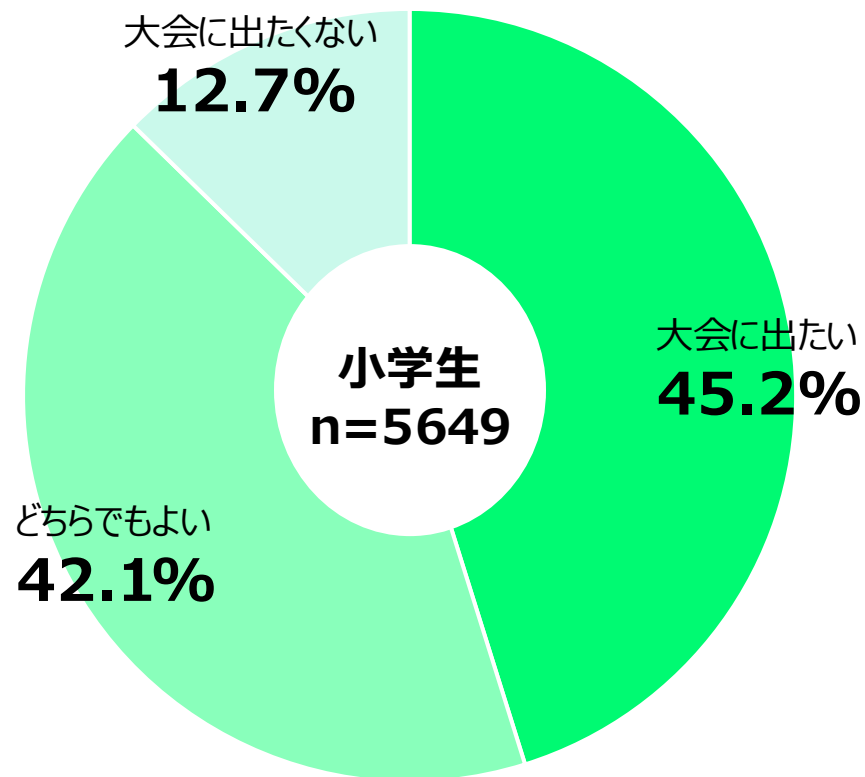


2.実証内容と成果

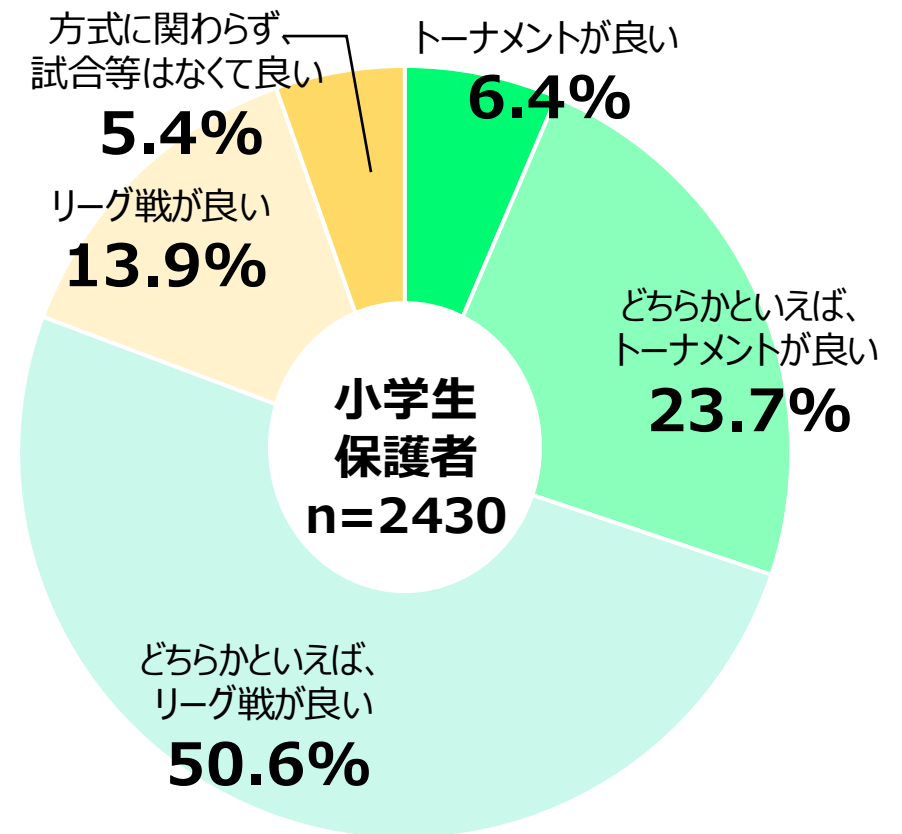
アンケート結果

●アンケート結果（小学生：児童・保護者）

Q.大会に出場したいと思いますか



Q.参加するスポーツ等の大会（競技会）の方式として、トーナメント方式（勝つと次の試合ができる）と、リーグ戦方式（勝敗に関わらず数試合できる）と、どちらが良いと思いますか。

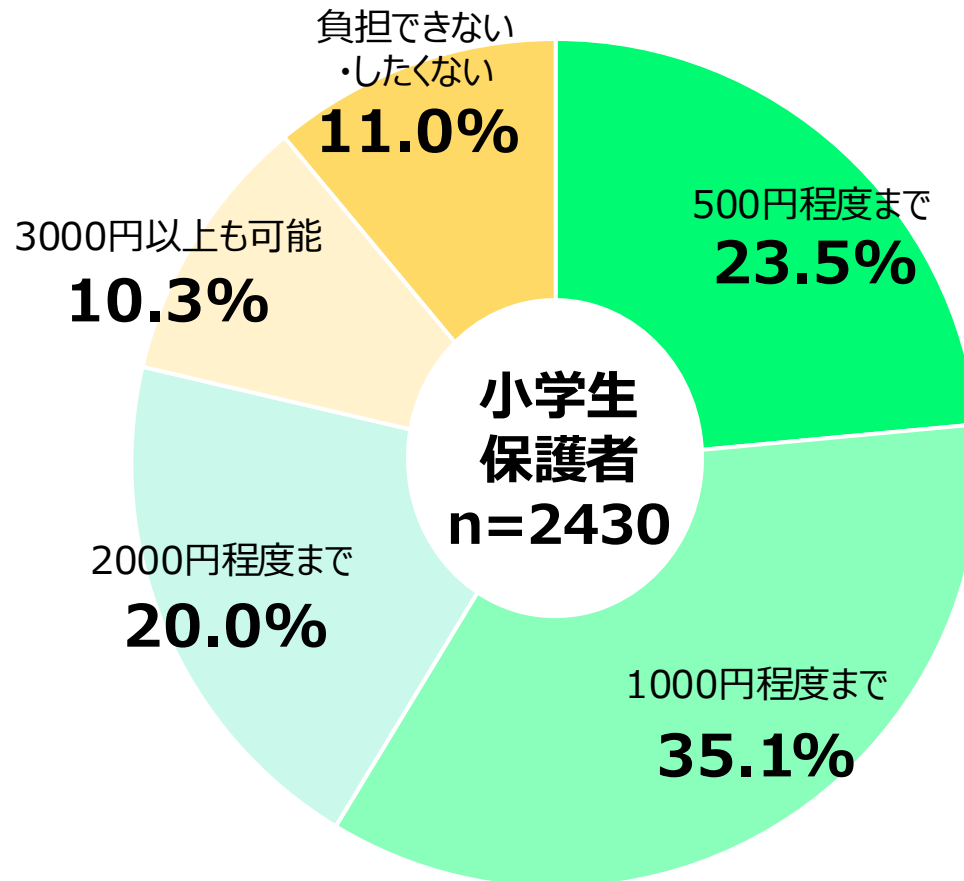


2.実証内容と成果

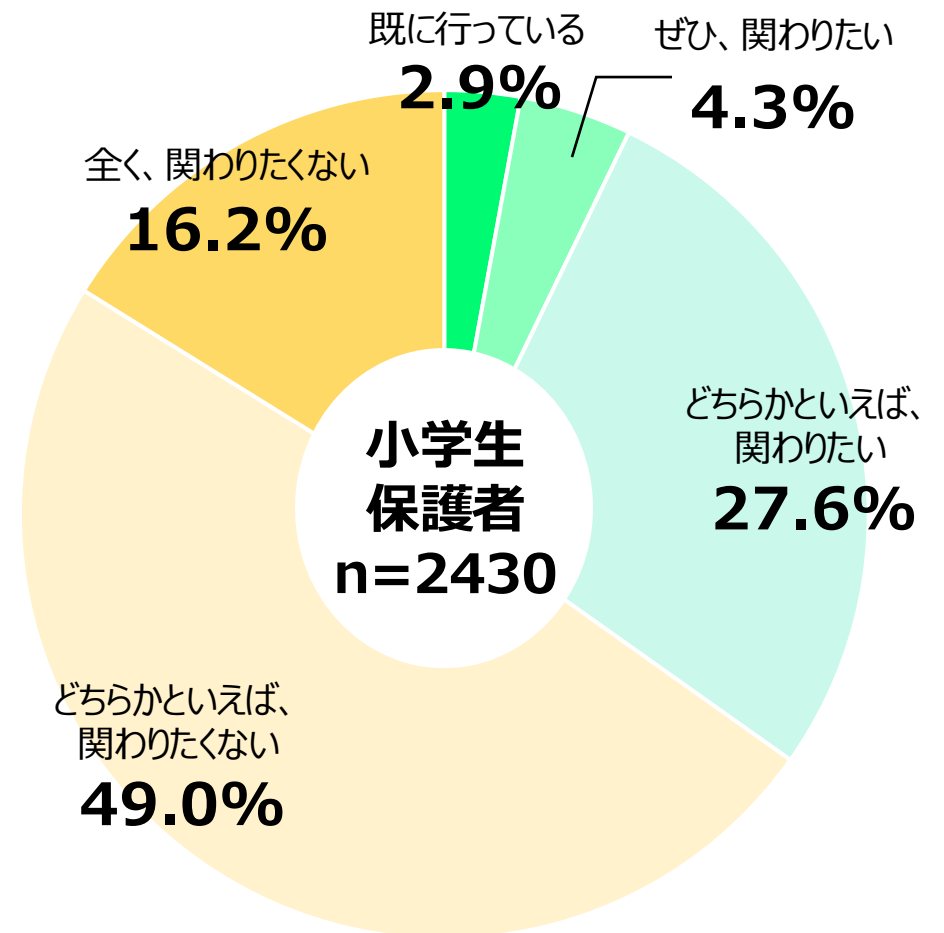
アンケート結果

●アンケート結果（小学生：児童・保護者）

Q.もし、週一回（土日のどちらか一日）、部活動の代わりに地域で文化・スポーツ活動を行うことができるとしたら、1回あたりいくらくらいを負担できますか？



Q.お願いされたら、地域の文化・スポーツ活動に指導者や見守り、サポーターとして関わりたいと思いますか？



アンケート結果

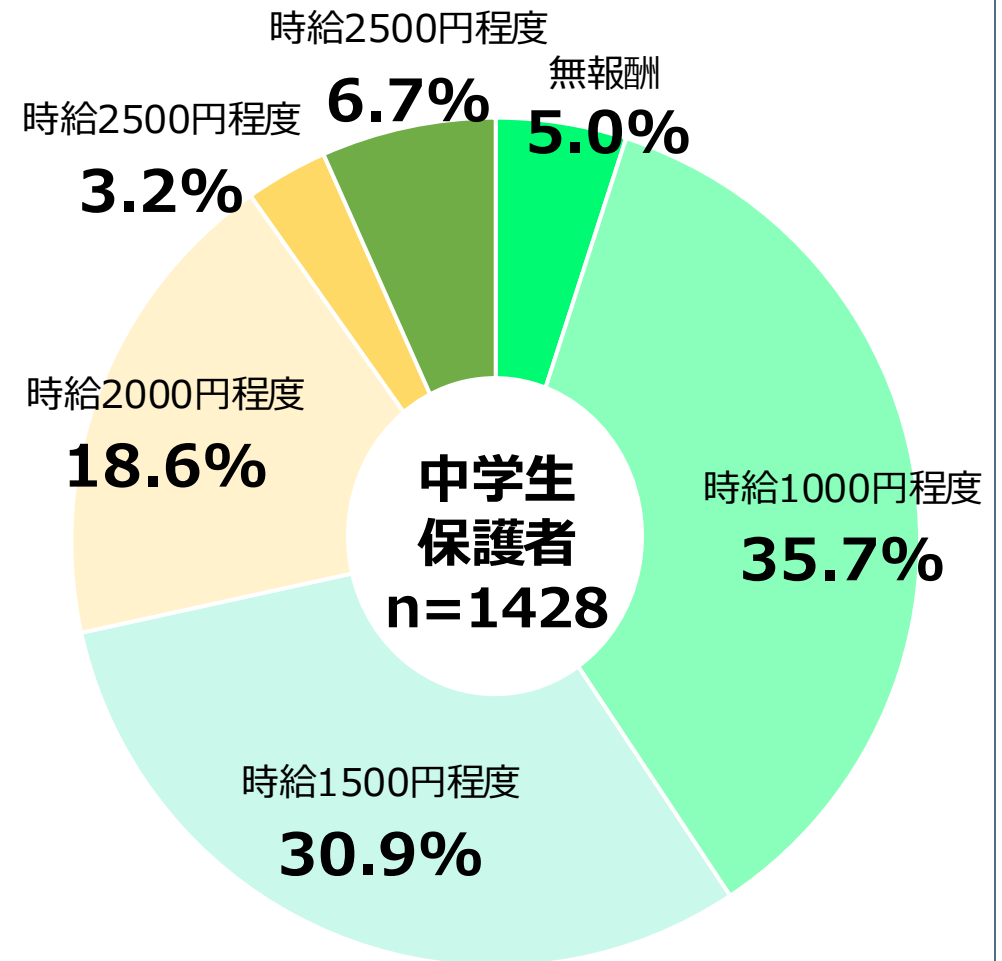
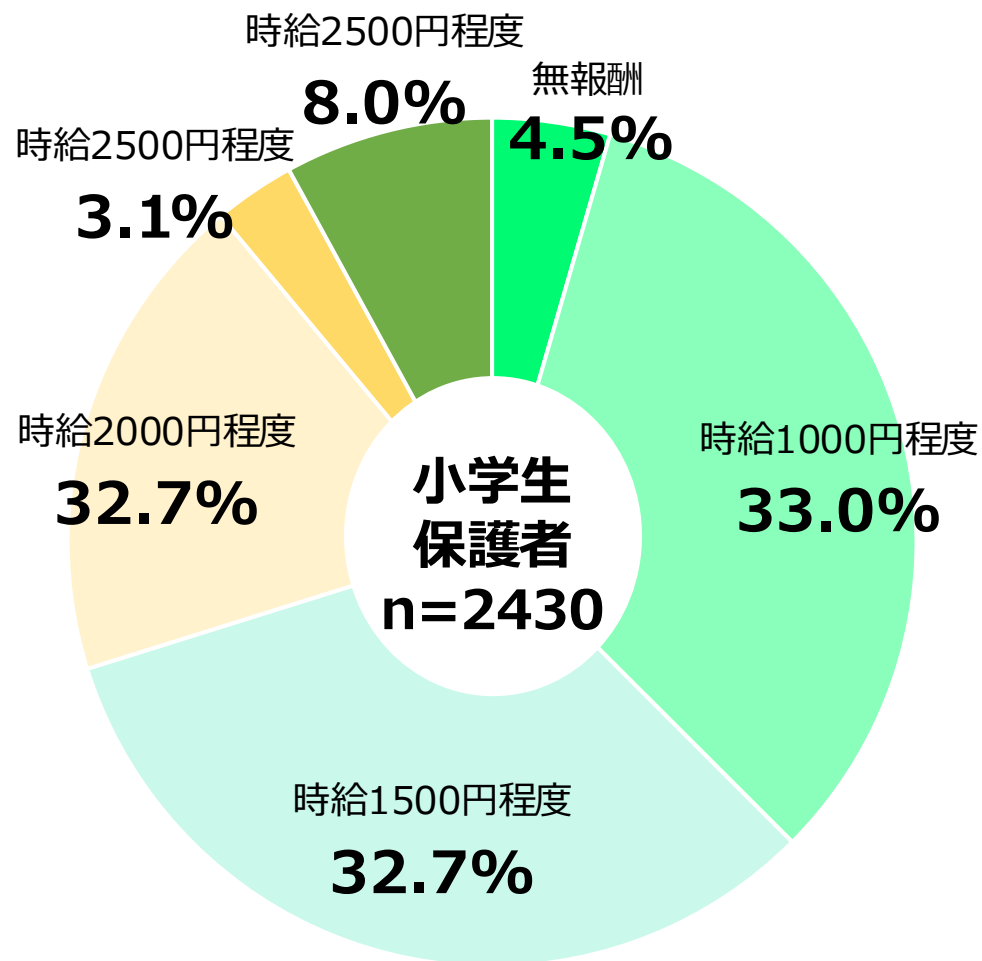
●アンケート結果の考察（小学生／保護者）

- 部活動の地域移行への認識は中学生に比べやや低い結果であったが、今年度から地域移行の情報を小学校にも展開していたため、思ったよりも認知度は高かった印象である。移行期の影響を受けるであろう今の小学生世代の保護者へは今後も継続して情報発信と少年団との連携を進めていくことが重要である。
- 小学生の“マルチスポーツ”への関心は中学生に比べ高いことが見受けられた。まだ本格的に種目を一つに絞る前の小学生へ向けたマルチスポーツの取組を進めていくことで、中学校にあがるタイミングに「学校の部活動しか選択肢がない」という状態を避ける必要がある。
- 大会に関しての考え方は中学生とは異なり、そこまで勝負にこだわってはいない状態であった。中学生の考察に書いた通り、保護者は上位大会を目指すよりも、たくさんの経験を積ませたいという気持ちが大いという結果であった。今年度行っている市内独自大会の実証の成果も出てきており、今度はこのような事例を重ね、子どもたちの発表の機会を多く創出していきたい。
- 受益者負担への考え方や、地域スポーツへの関わり方については、中学生保護者の結果とほぼ同じデータになった。小学校世代の地域スポーツ少年団では運営や指導にも保護者が積極的に関わっているが、地域展開への協力に関しは、関心が低い現状であった。

アンケート結果

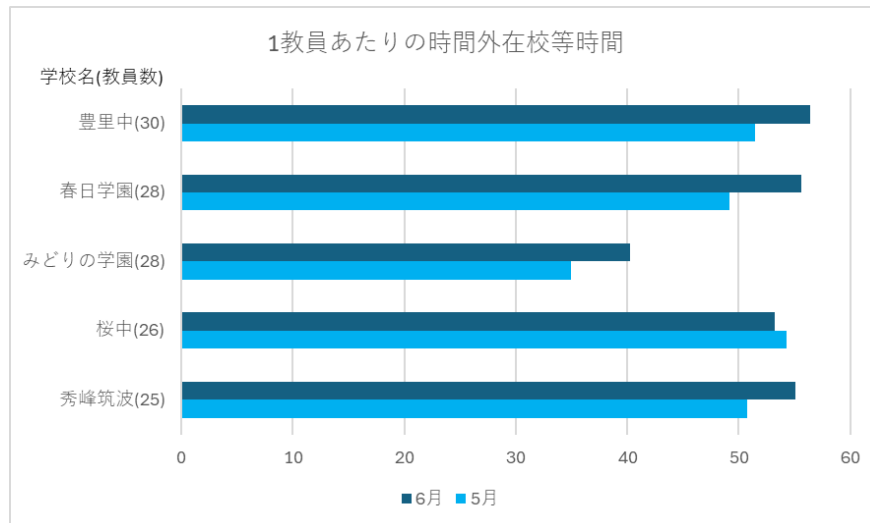
●アンケート結果（保護者の比較）

Q.地域指導者の謝金としてどのくらいの額が適切だと思いますか。



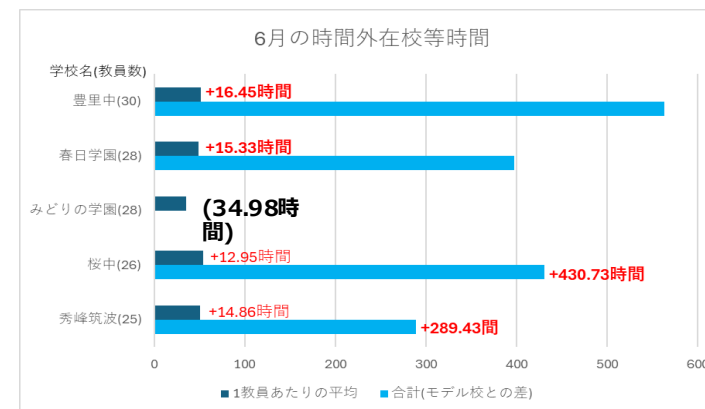
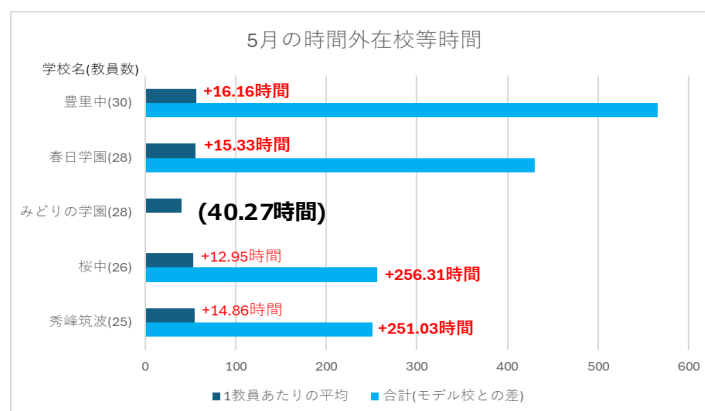
アンケート結果

●みどりの学園と他校の時間外労働時間の比較



学校全体の時間外在校等時間

学校名 (教員数)	5月		6月	
	合計	(h)	合計	(h)
豊里中 (30)	1693.07	+565.55	1543.25	+563.3
春日学園 (28)	1557.22	+429.7	1377.37	+397.42
みどりの学園 (28)	1127.52	0	979.95	0
桜中 (26)	1383.83	+256.31	1410.68	+430.73
秀峰筑波 (25)	1378.55	+251.03	1269.38	+289.43



部活動地域移行が進んでいるみどりの学園では、時間外在校時間が少なく、働き方改革にもつながっている。

2.実証内容と成果

広報資料

～のぼり・横断幕の作成～



【推進横断幕の作成】

～マルチスポーツ事業チラシ～



【マルチスポーツ事業】

引用:筑波大学体育スポーツ局

スポーツ庁

23

2.実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【ソフトテニス大会：試合】



【ソフトテニス大会：運営】



【バレーボール大会：試合】



【バレーボール大会：集合写真】

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

つくば市における部活動の地域展開において、コーディネーターは学校・地域・行政をつなぐ重要な役割を果たしている。学校のニーズと地域の指導者やクラブのマッチングを行うことで、円滑な移行を支援している。さらに、指導者の確保を進め、学校との連携を深めることで、生徒が継続して活動できる環境を整えている。

また、地域移行に対する学校や保護者の理解を促進するため、説明会への参加や情報共有の場を設ける役割も担っている。行政との連携を強化することで、地域全体での部活動支援の枠組みを確立している。コーディネーターの役割は、単なる調整役にとどまらず、持続可能な部活動の新たな形を創出する重要な存在として評価できる。

さらに、関係団体・分野との連携強化においてもコーディネーターがスポーツ協会や地域クラブ、大学に所属する競技団体と連携することで市独自の大会の開催や部活動の地域展開を円滑に進めるため、地域クラブの立ち上げや運営支援、指導者の確保など、多岐にわたる業務を遂行している。

●成果の評価

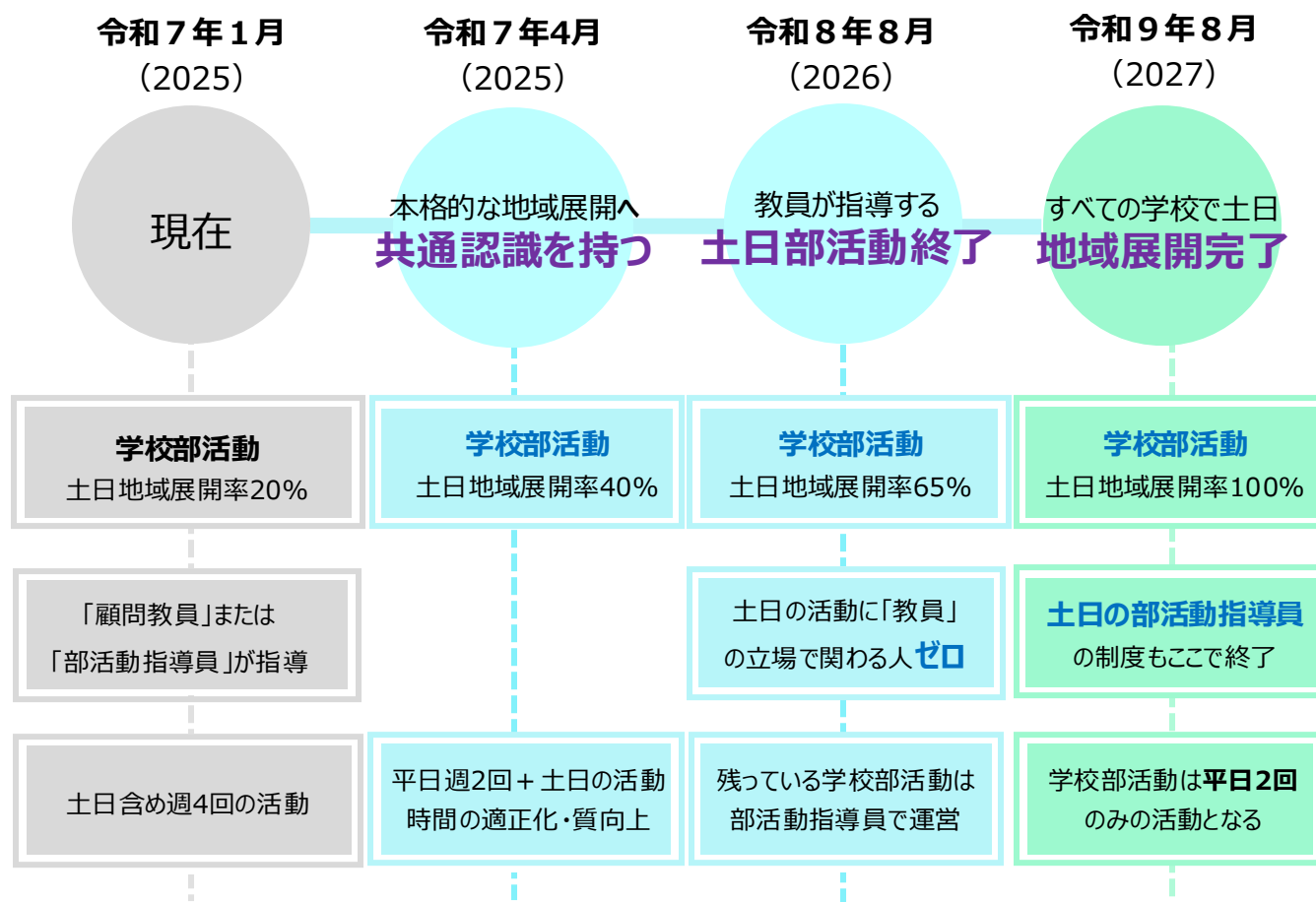
つくば市の部活動地域展開におけるコーディネーターの取組は、持続可能な部活動の実現に向けた成果を上げている。特に、学校と地域クラブ・指導者のマッチングを円滑に進めた点や各学校のニーズを把握し、適切なクラブや指導者を紹介することで、生徒が継続的に活動できる環境を整えた。また、指導者の確保や研修を通じて、地域移行後の指導体制の質を向上させた。さらに、保護者・生徒への説明会や学校との連携強化により、地域移行への理解を促進したことも大きな成果である。特に、みどりの学園義務教育学校では、全国的にも珍しい完全地域移行を実現し、そのモデルを他校へ展開するための基盤を築いた。一方で、財政面の課題や指導者の負担など、解決すべき課題も残る。これらに対応するため、企業等との連携を強化し、より安定した運営モデルを確立することが求められる。

●今後に向けて

- ① 教育委員会がリーダーシップを取り、常駐のスタッフ（コーディネーター）とともに強力に推進する体制を作る。
- ② 大会運営の種目数と回数を増やし、子どもたちの発表の場を増やす。さらに近隣の自治体とも連携を開始し広域的な大会事業を目指す。
- ③ 筑波大学や大学に所属する競技団体との協力を加速させる。
- ④ 中体連を巻き込み拠点校体制からの地域展開を目指す。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



3. 今後の方向性

地域展開の受け皿の考え方



① 合流する

既存地域団体に合流

例：少年団（中学部の創設）地域サークル等

② 新しく作る

新規地域団体を発足

例：保護者運営、教員兼業指導者が指導

学校ごとに部活動地域展開の
方針（計画）を立てる

地域団体との話し合い
または地域団体創立の検討

保護者
説明会

活動
開始

具体的なタスク

学校から学び推進課（コーディネーター）に相談し、各部活動の地域展開の方針を決める。

- ・何をすればいいのかわからない
- ・部員不足
- ・教員の負担が大きい
- ・保護者から学校（または教育局）に相談があった
- ・地域団体から学校に提案があった

学校部活動の現状を踏まえ、今後の活動の在り方を検討

既存の地域団体に受け入れてもらうか、保護者会や指導者（先生含む）を中心とした新規団体を創立することを検討
※展開後の活動場所を確保する。（学校施設の開放調整）

【学校と地域団体代表者で協議が必要な項目】

- ・活動場所、曜日の確定
- ・大会の出場（各種登録）
- ・規約、運営方針の策定
- ・顧問との連携方法（平日部活動との連携）
- ・保護者への説明
- ・指導者の確保
- ・運営体制の確立
- ・会費の設定
- ・保険の加入（必須） 等

※コーディネーターが協議内容の調整役を担う。

保護者会の開催

- ・市職員より全体方針の説明
- ・管理職より経緯の説明
- ・クラブ代表者より活動の説明
- ・質疑応答

その後、参加意思の集約を行い活動開始へ

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 ひたちなか市

自治体名： 茨城県ひたちなか市

担当課名： 教育委員会事務局指導課

電話番号： 029-273-0111

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	100.26 km ²
人口	152,982 人 (令和 7 年 1 月 1 日)
公立中学校数	8 校
公立中学校生徒数	3,750 人
部活動数	129 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

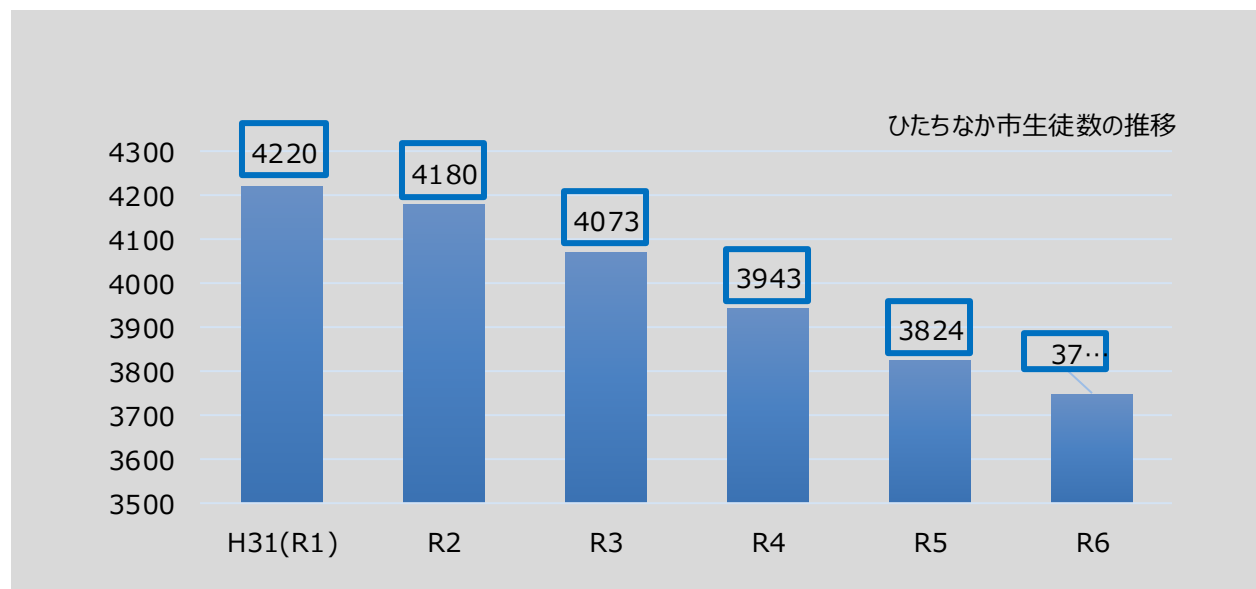
現在、当市の運動部活動は、軟式野球部、サッカー部、陸上競技部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、男子バレーボール部、女子バレーボール部、男子ソフトテニス部、女子ソフトテニス部、男子卓球部、女子卓球部、柔道部、剣道部、水泳部、体操部の15の部が活動している。

令和 4 年度から市教育委員会が主体となって、部活動の地域移行に取り組んでいる。その中で、運営団体・実施主体の明確化、持続可能な運

営資金（予算）の検討、活動場所の確保、指導者と学校との連絡体制の整備が課題と考えている。

中学校等の生徒数もゆるやかな減少傾向にあり、令和 6 年度の3,750人に対し、令和12年度では3,668人に減少する見込みである。

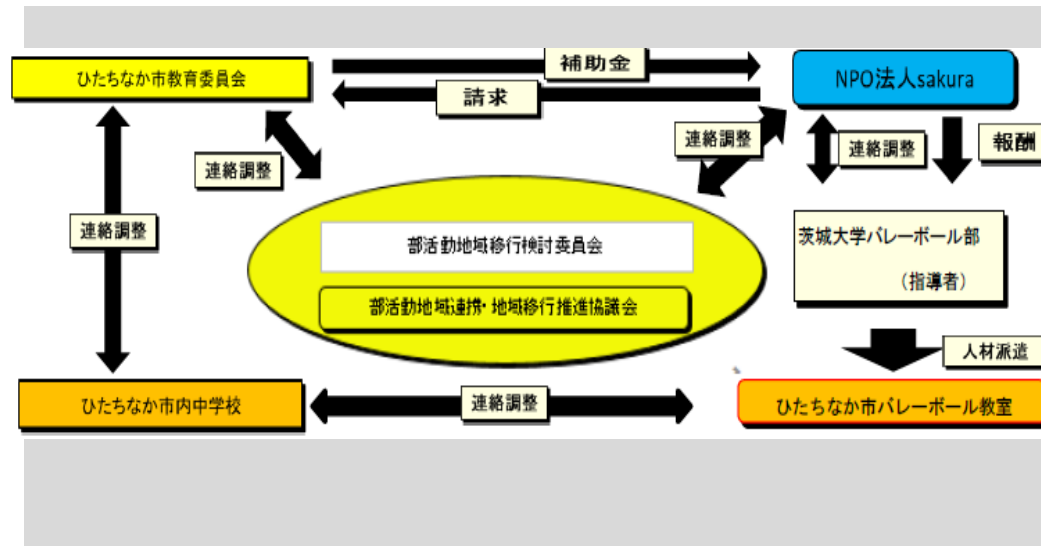
運動部の団体競技では、部員不足のため単独でチームを編成することができず、合同チームで大会に出場するケースも増えてきている。



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・指導課…活動実施形態の検討、事業者への委託、兼職兼業の調整、保護者への周知

◎首長部局

- ・検討委員会及び協議会への参加、助言

年間の事業スケジュール

令和6年8月	ひたちなか市バレーボール教室 体験及び保護者説明会
令和6年9月	ひたちなか市バレーボール教室 体験及び保護者説明会
令和6年10月	ひたちなか市バレーボール教室 開始
令和7年1月	第1回協議会開催
令和7年2月	参加者へのアンケート実施

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	8 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0 クラブ（0 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 クラブ
全体の指導者数	2 3 人	全体の運営スタッフ数	1 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
ひたちなか市バレーボール教室	NPO法人	バレーボール（新）	月2回	9:00～12:00	1 年63名 2 年52名	令和 6 年 10月～	ひたちなか市立美乃浜学園体育館	23 人	2 人 （内、兼務 1 人）	月会費 500 円	中体連：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 令和 6 年 8 月 体験及び保護者説明会実施（計 1 回）
- 令和 6 年 9 月 体験及び保護者説明会実施（計 2 回）

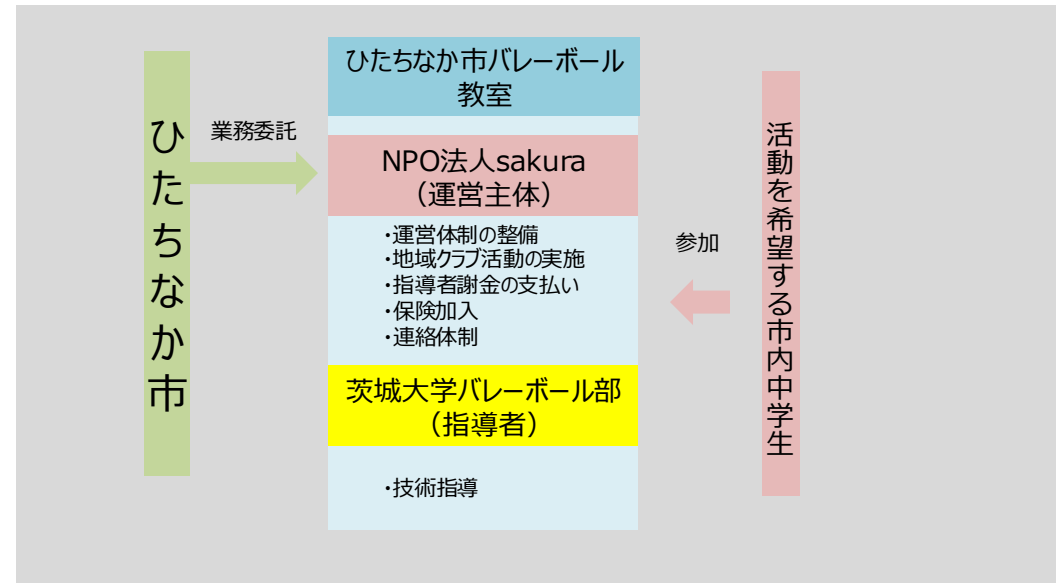
2.実証内容と成果

主な取組例

●ひたちなか市バレーボール教室 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール
運営団体名	ひたちなか市バレーボール教室
期間と日数	10月20日～3月31日 月2回程度
指導者の主な属性	大学生
活動場所	ひたちなか私立美乃浜学園体育館
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等（月額）	500円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、指導者、保護者との連携を行う

●コーディネーター

役割：活動における主任者として、指導者への指示及び調整、生徒への技術指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○教育委員会がNPO法人 sakuraと契約し、運営団体として事務局となり、指導者の派遣を担い、持続可能な体制を検討していく。

○参加者管理、会費徴収、参加者・指導者への連絡、会場の調整、会計業務等を行う。

取組の成果

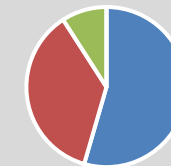
参加した中学生115人を対象としたアンケートの結果、回答者の約91%から、バレーボール教室に参加して、肯定的な内容の回答を得られた。

また、「技能が向上したか」については、約82%の肯定的な回答が得られた。

教室に参加して、主な良かった点としては、「練習方法や内容」、「コーチの教え方」などの回答が得られた。

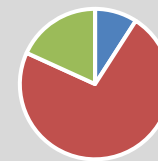
他にも、「部活動顧問とは違った角度で教えてくれ、参考になった」「やりたいポジションの技術を高めることができたので、高校でも続けていくための参考になった」との感想が寄せられた。

バレーボール教室に参加してどうでしたか



■ よかった
■ まあまあよかった
■ あまりよくなかった

技能は向上しましたか



■ 向上した
■ まあまあ向上した
■ あまり向上していない
■ 向上していない

今後の課題と対応方針

- 運営スタッフの人員が不足しており、会費徴収等の業務に支障をきたしている。運営スタッフを増やす場合、会費の徴収額が増える可能性がある。
- 参加生徒が増えたため、ボール等の必要物品が不足している。今後は参加者が持参するか、消耗品として別途会費を徴収する等の検討が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

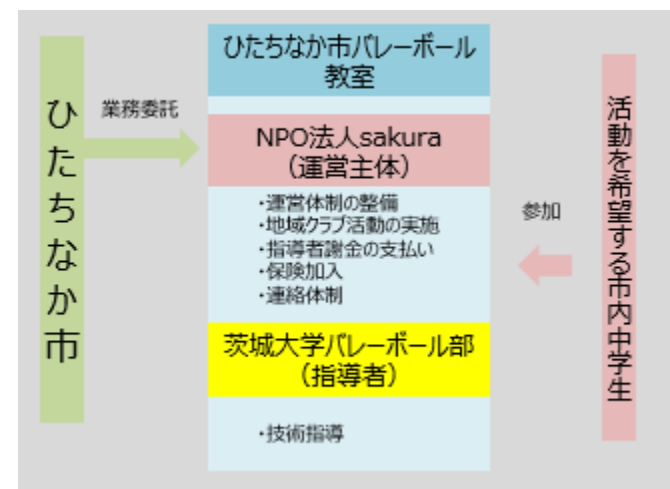
●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 指導者の派遣について茨城大学バレーボール部と連携。
- 参加者からの費用徴収、指導者への謝金支払い等の運営母体として、NPO法人sakuraと業務委託契約を結び、本事業を実施した。
- 実施回数は全12回。参加生徒総数は115人

取組の成果

- バレーボール教室を10月から開始するにあたって、生徒対象に体験教室、保護者対象に説明会を実施した（8月1回、9月2回）。保護者への説明会では、部活動地域移行に関する概要と、バレーボール教室に関する説明を行い、本事業と部活動地域移行の周知を図った。
体験教室及び説明会開催時は、市教育委員会担当が保護者への説明、指導者は参加生徒への指導を行うなど、分担して運営を行った。
- 指導者、運営母体、市教育委員会担当の三者で、本教室を開始するにあたり、打ち合わせを行うことで、スムーズな運営ができるよう、努めた。



実施状況

・回数	12回（1月2回実施）
・開催時期	令和6年10月～ 令和7年3月
・参加者数	115人 （中1:63人、中2:52人）
・指導者数	23人

主な経費・受益者負担額等

・指導者謝金単価	1,600円/1h
・保険料	生徒 800円（115人） 指導者 1,200円（2人） 1,850円（21人）
・受益者負担額	3,000円 （500円×6ヶ月分）

今後の課題と対応方針

○今後は、地域のさまざまな指導者や団体に参画してもらう必要があるが、運営母体が不足しているため、持続可能な体制づくりについて検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

夜間は地域の方に学校体育施設を開放している。地域クラブ活動となった場合、原則として休日の日中に学校体育施設を利用できるように調整を図る。

取組の成果

学校と連絡を密に行って計画を立てたため、全12回の活動において、100%、学校体育施設を利用しての活動を行うことができた。
美乃浜学園体育館は、アリーナが二つあるため、男女別のコートを作成して活動を行うことができた。

今後の課題と対応方針

- 今後、部活動の地域移行に伴い、中学生を受け入れる地域クラブ活動の拠点となる学校体育施設を利用しやすい環境を整えるため、市の公認制度等、整備の検討が必要。
- 参加生徒が増えると、1校の体育館だけでは不足となる。今後は参加人数に合わせて、男女別会場で実施するなど対策が必要となる。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本年度の実証事業では、中学校におけるバレーボール部活動の地域モデル構築を目指し、茨城大学バレーボール部との連携による指導者派遣と、NPO法人sakuraへの運営委託によるバレーボール教室を実施した。全12回の教室では、115人の中学生が参加し、地域におけるスポーツ活動の新たな形を模索した。

事業開始に先立ち、体験教室と保護者説明会を複数回開催し、地域移行の趣旨や教室内容について丁寧な説明を行った。これにより、参加者と保護者の理解を深め、スムーズな事業開始に繋がった。

運営面においては、教育委員会、NPO法人sakura、指導者の三者による定期的な打ち合わせを実施し、情報共有と課題解決に努めた。特に、参加者の安全確保や円滑な教室運営に重点を置き、各関係機関との連携を密にすることで、事業が遂行できた。

本事業は、地域におけるスポーツ活動の可能性を示すとともに、今後の地域移行に向けた貴重な知見を得る機会となった。

●成果の評価

参加生徒を対象としたアンケートでは、約91%が教室への参加に肯定的な回答を示し、約82%が技能向上を実感したと回答した。これらの結果から、本事業が参加生徒にとって有意義な活動であったと考えられる。

具体的な成果として、「練習方法や内容」、「コーチの教え方」が高く評価された。特に、部活動顧問とは異なる専門的な指導を受けたことで、新たな視点や技術を習得できたという声が多く聞かれた。また、「やりたいポジションの技術を高めることができたので、高校でも続けていくための参考になった」という感想もあり、生徒の今後の活動についても貢献できたのでは、と考えられる。

保護者説明会では、地域移行に関する概要とバレーボール教室に関する説明を行い、保護者の理解を得ることができた。体験教室と説明会を複数回開催したことで、より多くの生徒と保護者に参加してもらうことができ、地域移行に関する周知を効果的に行うことができた。

●今後に向けて

今後は、持続可能な体制構築に向けて、以下の点に取り組む必要がある。

まず、運営母体の確保と強化である。地域の様々な指導者や団体と連携し、運営スタッフの確保・育成に努める必要がある。特に、会計業務や参加者管理などを担う人材の確保が急務となる。

次に、財源の確保である。運営スタッフの人件費や必要物品の購入費などを賄うため、会費の見直しや新たな財源の確保を検討が必要となる。また、参加者数の増加に対応するため、ボールなどの消耗品を含めた必要物品の確保も課題である。

さらに、広報活動の強化も重要である。地域住民への周知を徹底し、より多くの参加者を募ることで、地域全体のスポーツ振興に繋げていく必要がある。

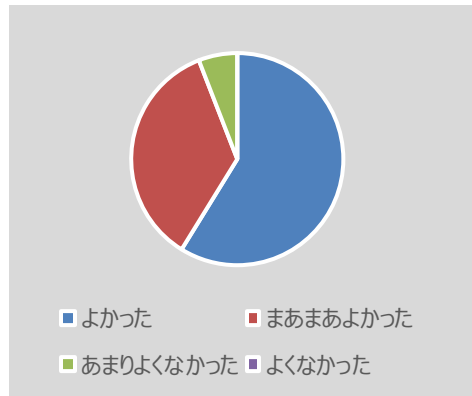
これらの課題を解決し、地域移行を成功させるためには、地域住民、学校、行政が一体となった取り組みが不可欠である。今後も関係機関との連携を密にし、地域の実情に合った持続可能な体制構築を目指していく。

2.実証内容と成果②

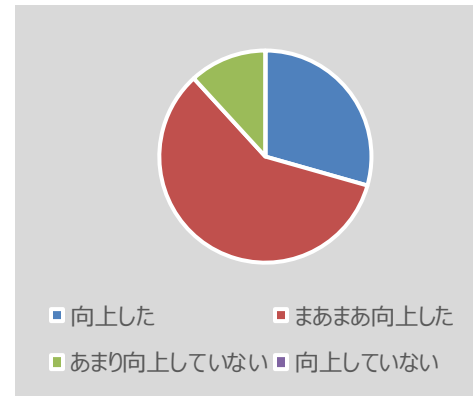
アンケート結果・参加者の声

●参加生徒へのアンケート結果

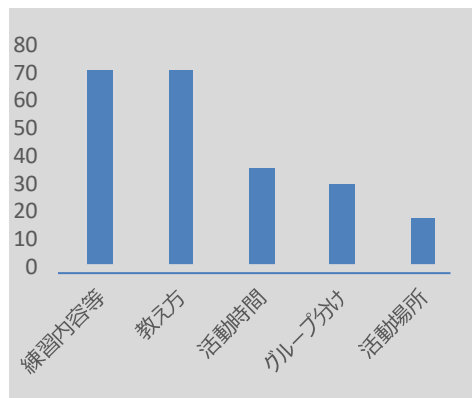
Q.バレーボール教室に参加して、
どうでしたか



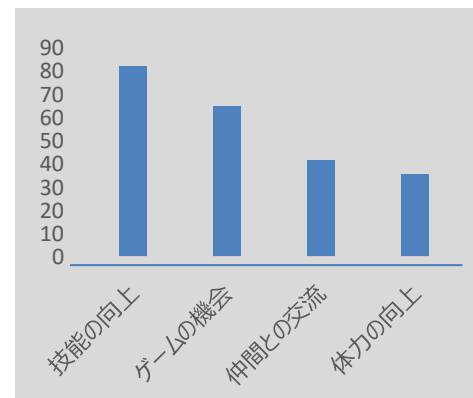
Q.バレーボール教室に参加して、技能
は向上しましたか



Q.バレーボール教室に参加して、良かった点を教えてください(複数選択可)



Q.今後、バレーボール教室に期待することはどんなことですか(複数選択可)



●参加者の声

中学1年生

練習環境も良く、大学生とも仲良くなれて、楽しく練習することができ、学校での練習とは違った雰囲気味わうことができ、楽しく活動ができました。

中学1年生

他の学校の生徒と一緒にチームを組んでゲームすることで交流ができたので、親睦を深めることができたことが新鮮でした。

中学2年生

指導者から技術指導やコツを教えてもらうことで、技能向上に役立ち、自分のプレーを見直すいい機会となりました。顧問の先生とは違った視点で、新たな発見ができました。

指導者

今回のバレーボール教室では、中学生の皆さんにバレーボールの楽しさを改めて感じてもらうとともに、技術向上を目指した指導を行いました。様々な感想から、楽しくできたといった感想が多く聞かれ、このような環境を提供できたことを嬉しく思います。

2.実証内容と成果③

広報資料

令和6年度 ひたちなか市バレーボール教室開催要項

- 1 趣 旨：市内中学生を対象にバレーボール教室を開催することで、将来にわたって、生徒がスポーツに継続して親しむことができる機会を確保する。
 - 2 主 催：ひたちなか市教育委員会
 - 3 主 管：NPO 法人 sakura
 - 4 開 催 日：令和6年10月から月に2回（原則第2・第4日曜日）
※会場等の都合により、変更の場合はお知らせいたします。
 - 5 時 間：9：00～12：00
 - 6 会 場：ひたちなか市立美乃浜学園体育館
 - 7 指 導 者：茨城大学バレーボール部
 - 8 活動内容：バレーボール技術指導等
 - 9 参加費：500円（1人/月）振込
10月からの参加…3,000円
11月からの参加…2,500円
※バレーボール教室を欠席した場合の返金はいたしません。
※参加費は一括払いのみといたします。
 - 10 振込方法：申込み後、振込先をメールにてお知らせいたします。
 - 11 申 込：下記二次元コードより申込。
10月からの参加…申込み期間 令和6年9月21日～9月30日17:00
11月からの参加…申込み期間 令和6年10月21日～10月31日17:00
 - 12 持 ち 物：運動のできる服装、体育館シューズ、飲み物
 - 13 保 険：スポーツ安全保険に加入します。
※保険料につきまして、今年度は市が負担いたします。
次年度以降は参加者の負担といたしますので、ご了承ください。
 - 14 移動方法：保護者送迎（開始前と終了後）、公共交通機関、自転車
 - 15 申 込 後：①申込された方にメールにて、下記についての各種文書を
NPO 法人 sakura より配付いたします。
・参加費納入の仕方について
・出欠連絡について
・緊急連絡先等の確認について
②今後の実施予定日についてはNPO 法人 sakura のHPでお知らせします。
(URL) <https://nposakura24.my.canva.site/>
- <申込み先>下記の二次元コードよりお申し込みください。

ひたちなか市公式HPに「学校部活動の地域移行」に関するページを開設。
YouTube動画もアップした。(URL) <https://youtu.be/XDIzvO6j-EA>



30th Anniversary
ひとが咲くまち。ひたちなか

「休日」の学校部活動の地域クラブへの移行に向けて

部活動の地域移行とは、学校が主体の学校部活動を地域が主体となる地域クラブ活動に移行する取組です。少子化が進む中、生徒が継続して、多様なスポーツや文化芸術活動に親しむ機会を確保することを目的としています。

どうして部活動の地域移行をするの？

- 全国で少子化が進んでいるため
 - ・1部活動あたりの部員数が減少
 - ・1中学校あたりの部活動設置数が減少

○子供たちのスポーツ・文化芸術活動の機会を守る

- ・地域で多様なスポーツ・文化芸術活動ができる機会を確保

○地域の子供を地域で育てていく

- ・地域の多様な世代と豊かな交流
- ・学校を超えた仲間づくり

学校部活動から地域クラブ活動へ

地域クラブ活動は、地域の多様な団体が運営・実施する活動です。学校施設のほか、市民体育館やコミセンなど、様々な場所で開催します。地域のこどもニーズに合わせた様々な選択肢をつくることができます。

学校部活動 例：○○中学校での部活動

地域クラブ活動 例：○○地域での地域クラブ活動

休日の活動を地域クラブへ！

(スポーツ庁広報資料参考に作成)



どのように進めていくの？

学校や地域の状況を踏まえて、段階的に進めていきます。
準備ができた種目から順次スタートしていきます。
(市公式HPなどで随時お知らせします)

「地域移行」のメリットは？

POINT1
自分のやりたい活動ができます！
複数の活動を兼ねることもできます！

POINT2
ニーズに応じた技術指導を受けられます！

POINT3
地域の様々な年代の人や、他の中学校の生徒とも関わるができます！

ひたちなか市の地域移行の現状はどうなっているの？

○ソフトテニスや柔道など、地域クラブで活動している生徒が、総体や新人戦等の中体連の大会にも出場しています。

○令和6年10月より、「ひたちなか市バレーボール教室」が始まり、クリニックを開催しています。

地域移行をすると、休日はどんな過ごし方になるの？

休日をもどのように過ごすかは、自分で選択できるようになります。学校部活動と同じ種目に限らず、自分の興味や関心のある様々な活動に参加できるようになります。

<活動の例>

Aさん サッカークラブ Bさん テニスクラブ
Cさん 音楽を楽しむ Dさん 吹奏楽クラブ
→自分で活動を選択できます！

Q&A

Q 休日の部活動はいつまでに地域に移行するの？

A 令和8年度始めから移行できるよう準備を進めています。体制が整ったところから、順に活動をスタートしていきます。

Q 平日の部活動はどうなるの？

A 当面、今までどおり継続します。

Q 部活動以外の種目もできるの？

A 生徒の皆さんが希望する活動ができるように整備を進めていきます。

Q 休日はゆっくり休みたいのだけれど、活動しないといけないの？

A 休日に休むか活動するかは自分で決めます。

Q 真なる中学校の生徒でも、同じ地域クラブで活動できるの？

A 中学校が違ってても一緒に活動できます。

Q 地域クラブは中体連の大会に参加できるの？

A 中体連に加盟している地域クラブであれば参加できます。

Q 学校で入っている保険は使えるの？

A 地域での活動になるため、別の保険に加入する必要があります。

ひたちなか市教育委員会

所在地：茨城県ひたちなか市東石川2丁目10番1号

電話番号：029-273-0111（内線7333）

【バレーボール教室開催要項】

【ひたちなか市部活動地域移行広報チラシ】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【保護者説明会】



【練習の様子】



【ポイント指導】



【バレーボール教室指導者】

2.実証内容と成果

ひたちなか市バレーボール教室の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年2月

美乃浜学園体育館でのバレーボール部合同部活動開始

令和6年5月～

校長会での説明、部活動顧問への説明、運営団体等との打ち合わせ

令和6年8～9月

生徒への体験教室開催、保護者への説明会

令和6年10月

バレーボール教室の開始

令和7年4月以降

バレーボール教室の継続

ステークホルダー

学校、茨城大学バレーボール部、NPO法人sakura
市長部局、市教委

経過

令和5年度より美乃浜学園体育館を活用したバレーボール部による合同部活動を開始した。内容は、茨城大学バレーボール部大学生を指導者として、クリニックの形で実施してきた。令和6年度より、本市の部活動地域移行実証事業として茨城大学とNPO団体に指導と運営を依頼し、事業開始までの打ち合わせを重ねた。同時に市内校長会との部活動地域移行の方針及び、スケジュール、実証事業についての情報交換を重ねた。また、バレーボール部顧問への説明及び聞き取りを行った。

本教室を開催する前に、市内バレーボール部員対象生徒への体験教室を2ヶ月間開催し、参加するかどうか選択できるようにした。また、保護者を対象にした、部活動地域移行と本事業について説明会を行い、本教室がスムーズに運営できるように努めた。

実施内容

実施に当たり、参加生徒の学年や経験、希望ポジション等を事前にリサーチし、練習内容を生徒のレベルやポジションごとに変えて行うなど、工夫して実施した。また、参加人数が多いときは複数会場で実施するなど、人数に応じた運営をした。

実施にあたって生じた課題

本教室への移動は、保護者送迎及び公共交通機関としているが、本市は広域のため、保護者送迎が負担であるとの声がアンケートより寄せられた。また、運営スタッフは少数のため、本教室への参加生徒が115人に増えたことで、入金確認や登録等の業務量が増えた。

今後の展開

令和7年4月から9月まで本事業は引き続き行うが、10月からは、団体の自走事業とする。参加者の会費負担額が増えるため、参加者が減る可能性もある。その場合の持続可能な組織づくりも今後の課題となる。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

学校部活動の地域移行に向けたスケジュール

年月	R 6				R 7												
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
関係団体	- スポーツ協会総会(6/5) - 市スポーツ協会副会長への説明(7/25,31) - 市少年団本部長への説明(7/29) - 指導者講習会での説明(8/3) - 市文化協会会長への説明(8/8) - 少年団団長への説明(10/11)					- スポーツ協会総会			- 指導者講習会								
		各団体（スポーツ・文化芸術）へのヒアリング			各団体（スポーツ・文化芸術）へのヒアリング												
地域クラブ活動 (実証事業)	- バレーボール教室事業委託 (実証事業)					- 実証事業											
		バレーボール教室（10月～）			運営体制の整備（※準備ができた種目から地域クラブ活動へ移行）												
		軟式野球・吹奏楽（12月～）															
広報																	
		市HP、市公式LINE、市報、各校HP に発信・更新			市HP、市公式LINE、市報、各校HPに発信・更新												
学校 生徒 保護者	- バレーボール教室説明 校長会(7/16)、 顧問(7/31)、 保護者(8/4、8/24) - 楽器の保有数調査(7月～) - 吹奏楽顧問との情報交換会(8/22)					- 楽器・楽器希望 調査(教員)					- 楽器・楽器希望 調査(教員)						
		各校及び専門部との情報交換															
						- 地域クラブ活動 意向調査 (生徒・保護者)			- 地域クラブ活動 意向調査 (生徒・保護者)			- 地域クラブ活動 意向調査 (生徒・保護者)					

休日の地域
クラブ活動
試行期間

休日の地域
クラブ活動
試行期間

学校部活動地域移行説明会
(各中学校)

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 鹿嶋市

自治体名：茨城県鹿嶋市

担当課名：教育委員会事務局スポーツ推進課

電話番号：0299-82-2911

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	106.04 km ²
人口	64,623 人 R7年2月1日現在
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	1,491 人
部活動数	41 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状】

鹿嶋市では、部活動の地域展開について、基本的にスポーツや文化芸術活動を楽しむことを主な目的としている。

子どもたちのためでもあるが、地域住民がスポーツや文化芸術に親しむ環境を向上するための一つの手段であるという認識のもと、教育指導課、スポーツ推進課、社会教育課と連携しながら体制を整えている。

スポーツ競技では、市内中学校で活動している9つの競技（サッカー、軟式野球、ソフトテニス、バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球、柔道、剣道）を地域展開できるよう

調整しており、令和6年度では、5つの競技（ソフトテニス、バドミントン、バスケットボール、卓球、剣道）を地域クラブとして実施。

剣道は、市剣道連盟主体のクラブが受け皿となり、その他4競技については、かしまスポーツクラブへ業務委託し、活動を開始した。

【課題】

地域クラブ活動の参加者が思うように増えないため、周知方法の改善や新たなPR方法を模索していく必要がある。

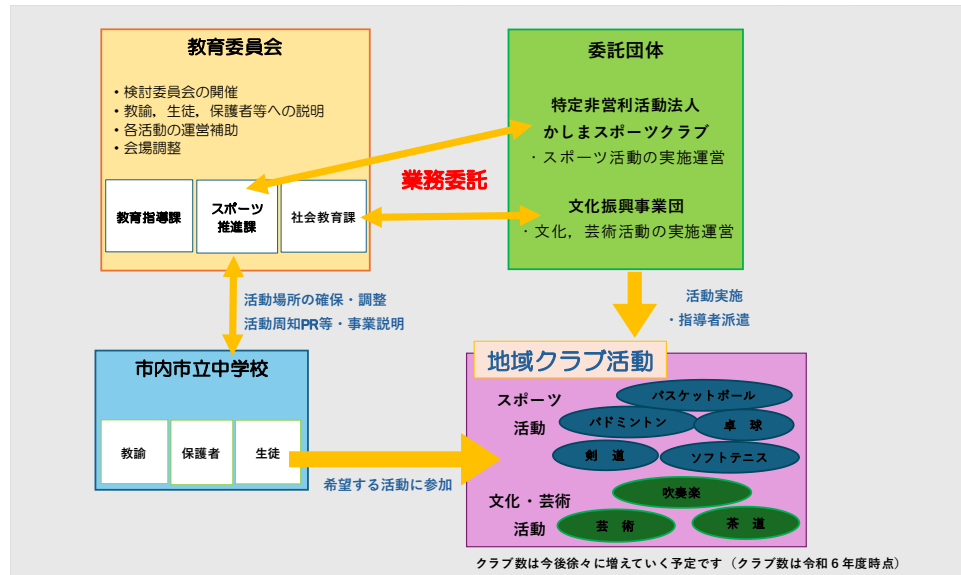
補助金への依存が強い運営体制になっているため持続可能な体制づくりが必要不可欠となる。

種目によって、協力できる指導者が少なく、活動を開始できないため、関係者、団体との密な連携が必要になる。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

教育指導課、スポーツ推進課、社会教育課の3課で役割分担している

- ・教育指導課：検討委員会の開催、今後の方針策定など
- ・スポーツ推進課：スポーツ活動の運営補助、会場調整、環境整備など
- ・社会教育課：文化・芸術活動の運営補助、会場調整、環境整備など

◎首長部局

役割なし

年間の事業スケジュール

令和6年8月	第1回検討委員会開催
令和6年8～10月	各競技団体・委託先との打ち合わせ実施 （受け入れ可否、地域クラブの新設について）
令和6年11月	第2回検討委員会開催
令和6年12月	地域クラブ体験会実施 （バドミントン、ソフトテニス、卓球）
令和7年1月	かしま地域クラブ活動開始 （バドミントン、ソフトテニス、卓球、バスケットボール） かしま剣道教室活動開始
令和7年2月	第3回検討委員会開催

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5 校	実施した地域クラブ総数	6 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0 クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		6 クラブ
全体の指導者数	33人	全体の運営スタッフ数	26人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
かしま地域クラブ	特定非営利活動法人 かしまスポーツクラブ	バドミントン 卓球 ソフトテニス バスケットボール	月 2 ～ 4 回	9時～12時 または 13時～16時	市立中学 1年生～3年生	令和7年 1月～	市立中学校	15人	8人	今年度は徴収しない	現段階で大会参加はしない
かしま剣道教室	鹿嶋市剣道連盟	剣道	月 1 回	9時～11時 18時～20時	市立小学1年生～ 中学2年生	令和7年 1月～	市立中学校・公民館	18人	18人 （兼務18人）	月会費 500円/回	中体連は各学校で出場

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 12月22日 地域クラブ体験会の実施（3競技）
バドミントン、ソフトテニス、卓球

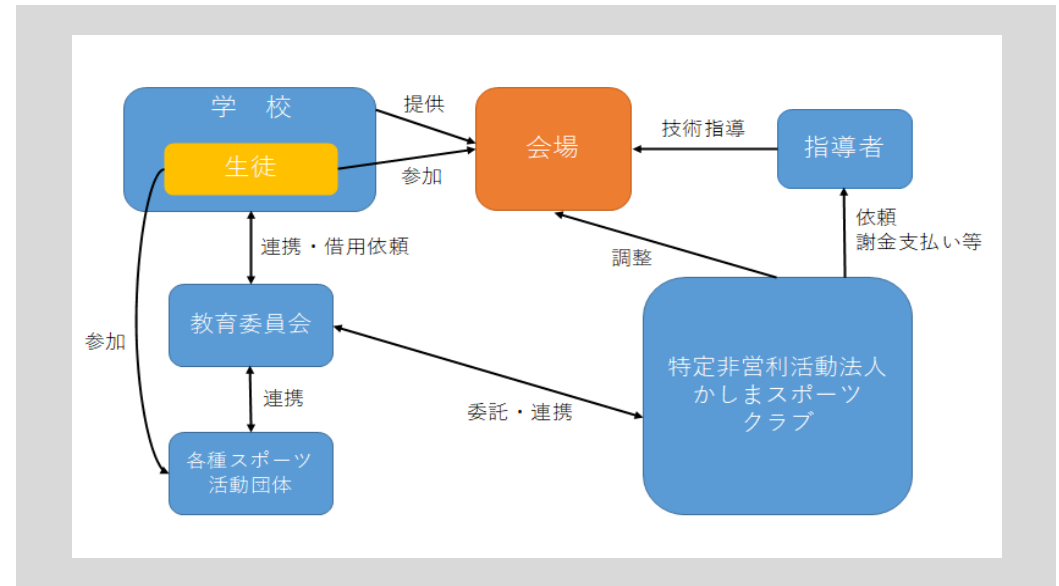
2.実証内容と成果

主な取組例

●かしま地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール, バドミントン, 卓球, ソフトテニス
運営団体名	特定非営利活動法人 かしまスポーツクラブ
期間と日数	各競技 月2～4回 雨天中止や人数不足の場合に減少
指導者の主な属性	かしまスポーツクラブ関係者
活動場所	市立中学校（体育館・庭球場）
主な移動手段	保護者の送迎, 自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	今年度は徴収しない
1人あたりの保険料	今年度は行事保険に加入

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●コーディネーター

役割：指導者調整，地域クラブ活動とりまとめ，生徒・保護者への連絡等

●主任指導者 15 名

役割：競技指導の実施，活動報告

●運営補助者 8 名

役割：地域クラブ運営補助，施設のカギ開け等

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○教育委員会内で連携することで、学校等の関係団体との連絡調整を円滑に進める。
○持続可能な組織体制の整備を行う。
○かしまスポーツクラブに参加申し込みから生徒への案内、指導者募集等を行ってもらい、関係者間での連絡手段として、アプリ「Sgrum」を活用し、生徒や保護者、指導者等が1つのアプリで円滑な連絡調整を行う。

取組の成果

○アプリを活用することで、同じプラットフォーム上で実施内容や日程をリアルタイムで確認できるようになり、連絡漏れや伝達ミスが減少し、円滑な連絡体制を構築することができた。特に、急な日程変更や天候による活動中止の際にも、速やかに全員へ情報共有が可能となった。
○かしまスポーツクラブと連携することで、地域のクラブ会員や関係者ネットワークを活用し、従来は確保が難しかった競技経験者や指導実績のある人材を効率的に確保することができた。また、指導者側もアプリを通じて活動日程や担当分担を把握できるため、指導環境の安定にも繋がった。
○教育委員会内で連携を強化したことにより、学校への協力依頼や生徒への情報発信も迅速かつスムーズに行えるようになった。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・指導者の手配
- ・各スポーツ団体や学校へヒアリング等を実施し、現場の声や実態把握
- ・生徒、保護者、指導者への連絡調整

今後の課題と対応方針

- ・コーディネーターへの負担が大きいため、適切な事務分担が必要となる
- ・運営体制の見直し
- ・かしまスポーツクラブで活動実績のない部活動の指導者調整

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

○実証事業をかしまスポーツクラブに委託することで、各スポーツ実践者との連携強化を図った。
○かしまスポーツクラブ以外の団体との連携を深めるため、各種協会や関係団体と連絡調整等の打ち合わせを行った。

種目

・バスケットボール
・ソフトテニス
・バドミントン
・卓球
・剣道
(市連盟主体)

資格有無

資格の有無関係なし
に指導者募集を行っている
概ね活動する競技の
実践者を対象としている

取組の成果

○公立中学校で実施している部活動（9競技）の実施に向け、指導者の確保に取り組んだが、かしまスポーツクラブでは4競技（バスケットボール、ソフトテニス、バドミントン、卓球）の指導者確保にとどまった。（右記のとおり）

今後も引き続き、スポーツ団体や協会指導者確保に向けた協議を行なっていく。

○教育委員会、受託者、各スポーツ団体、学校で情報共有・意見交換を行った。

かしま地域クラブ指導者一覧

No	氏名	種目	資格等
1		ソフトテニス	
2		ソフトテニス	
3		ソフトテニス	
4		卓球	・部活指導員 ・卓球コーチ ・バラスポーツ指導員
5		卓球	
6		卓球	
7		バドミントン	・JSPOスタートコーチ ・中学社会第1種教諭免許
8		バドミントン	
9		バスケットボール	・JBAライセンス ・JSPO公認
10		バスケットボール	・JISA認定員
11		バスケットボール	
12		バスケットボール	
13		バスケットボール	
14		バスケットボール	
15		バスケットボール	

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○校長会や教育懇談会等において、地域クラブの取り組みと現状についての説明を実施。

○地域クラブ検討委員会を開催し、教育に関わる多くの方の意見を取り入れ、より良い改善を実施。

取組の成果

○校長会や教育懇親会等の場で、地域クラブを含めたスポーツ活動の取り組みについて丁寧に説明し、学校関係者や教育関係者の理解を深め、地域全体での支援体制づくりに繋げることができた。

○学校の協力を得ながら、市内中学校や県立学校、私立学校に対し、事前の周知活動を行うとともに、募集チラシの配布も実施し、より多くの生徒や保護者への情報提供を行うことができた。

○剣道競技については、指導者の確保だけでなく、運営面についても鹿嶋市剣道連盟が主体的に関わる体制を構築し、地域クラブとして継続的・安定的な活動が可能となる自走型の仕組みづくりを進めることができた。

今後の課題と対応方針

○地域クラブの活動を安定的かつ持続的に運営していくためには、限られた人員やリソースの中で、運営の効率化や業務分担を一層進めていく必要がある。そのため、地域のスポーツ団体や関係機関、学校、地域住民など、多様な団体・人材に参画してもらうことが重要であり、今後は情報共有の機会を増やすとともに、連携強化や役割分担の明確化を図り、地域全体で支える体制づくりを進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○地区別の意見交換会や県主催のシンポジウムに参加し、多くの自治体の状況確認や情報交換をした。
○地域クラブに参加できる生徒を市内に限らず、近隣市町村等の市外の子も受け入れられる体制整備を行う。

各自治体の役割

○鹿嶋市教育委員会
（教育指導課）
・検討委員会の開催
（スポーツ推進課）
・学校との会場調整
・チラシ配布や事業説明等

事務局運営の方法

○委託先NPO法人かしまスポーツクラブに事務局を設置。
○コーディネーターを配置し、指導者の手配等の連絡調整を実施

取組の成果

○かしま地域クラブ活動に参加した生徒は、延べ82名で市内すべての公立中学校から参加があった。（4競技//1月・2月で計6回）

今後の課題と対応方針

○令和7年8月末までに、現在活動している休日のスポーツ部活動を地域クラブへ展開する。
○平日部活動の展開が今後の課題となる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○参加できる競技に制限を設けないことで自分のやりたい競技ができるような活動とした。

○新たなクラブとして立ち上げることで、他校の生徒との交流を深められる環境とした。

○各競技の実践者から直接指導を受けることで、技術向上も図っていく。

活動の詳細

参加人数	延べ82 人	指導者数	15 人
属性	かしま地域クラブ（4 種目：バスケットボール・バドミントン・ソフトテニス・卓球）		
具体的な内容	- 基礎練習から応用練習など。実践形式での試合等 - 個人個人に沿った指導 - スポーツを通して、スポーツの楽しさを体験することや興味関心を深めることを目的とする		
子供の声	- 指導者から実践的なアドバイスをもらえてよかった - たくさん人が増えると楽しくなった - 他校の生徒と交流できて楽しかった		
関係者の声	- 部活動が地域以降する中で新しく活動できる場所ができて助かる - 指導者として少しでも地元の子たちのためになれば良いと思う - 参加する生徒が増えるにより実践的な練習ができる		
運営経費	会場使用料：なし（公立中学校（庭球場・体育館）を借用のため） 指導者謝金：1,500円/時間 参加費：500円/回 ※令和6年度は体験会としたため徴収しない		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○実証事業の段階では、活動に参加してもらうことを優先的に考え、参加費を無くす中で、補助金に頼らない運営体制の構築も進める。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

消耗品費（100～200千円）

■ランニングコストの分析

消耗品費（30千円/年間）

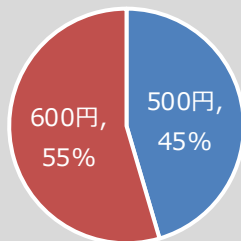
指導者謝金（4.5千円/ 1 人 1 回あたり）

指導者保険料（1.85千円/ 1 人あたり・年間）

事務局人件費（4.5千円/回）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

生徒一人あたりにかかる経費に対する
負担割合



■ 参加者

○最低限必要な経費（1 競技あたり）

（指導者謝金×3 時間×1 人+事務局人件費×3 時間×1 人分+保険料）

÷参加生徒10 人（想定）＝生徒一人あたりにかかる経費

$(1,500円 \times 3 \times 1人 + 1,500円 \times 3 \times 1 + 1,850円) \div 10 = 1,100円$

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

収支バランス

○令和6年度については、1競技1回あたり1,100円の経費がかかっているものの、茨城県からの委託金を活用し、参加費を徴収せずに運営できた。今後は、補助金に頼らない自走できる運営づくりが必要となる。

参加者数を増やすまたは参加費を増額する等の検討をする必要がある。

地域クラブ年間経費/1競技あたり

【支出】

項目	金額	該当人数	回数/年	負担額	
指導者金	5,000円	1	42	210,000	4.12.3…月2回/その他月…月4回
保険料	1,850円	1	1	1,850	
事務局人件費	4,500円	1	42	189,000	1,500円/h
その他消耗品等	30,000円	1	1	30,000	
				430,850	

【収入】

項目	金額	該当人数	回数/年	負担額	
参加費	500円	862	42	431,000	21人/回参加者数
				431,000	

※保険料は参加者負担

今後の課題と対応方針

○令和7年4月から先行実施の4競技については、会費の徴収を行い、
他競技については、体験会とし、参加者数の増加を図る。

○補助金や公費に頼らない仕組みづくりとしてふるさと納税の活用や、企業等の協賛も検討していく必要がある。

○指導者謝金を負担するためには、参加者の増加が必要になるため、
現在実施しているチラシや電子端末配信の周知以外のSNS等を活用した
広報活動も拡大していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 現在実施している競技については、公立学校施設（庭球場・体育館）を活用して実施している。
- 各中学校の体育施設を訪問し、各競技の備品やコートの大さき等の確認を行った。
- 各中学校へ訪問し、事業への理解を促し施設の利用について調整を行った。

取組の成果

- 1・2月の活動（全6回開催）において、学校で部活動の行われていない日を調整することにより、すべての日程を学校体育施設を借用し利用し活動することができた。
- 学校施設の借用許可後に、学校都合によって利用ができなくなる場合もあったが、柔軟な対応によって代替日での開催が実現できた。
- 施設の鍵開け等について事務局で行うことで教諭の負担削減に努めた。
- 学校側も、施設利用について理解が深まっており、相互の協力体制の構築が実現した。

今後の課題と対応方針

- 今後、地域クラブが増えることを考えると、現在行っている一般の学校施設開放事業との調整が必要となるため、条例や規則等の改正を検討する必要がある。
- 人事異動等で先生が変わるたびに事業趣旨の理解を求めることが必要となる。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年8月よりNPO法人かしまスポーツクラブと業務委託を締結し、地域クラブ活動への取り組みを始めた。学校や各種団体との調整や打ち合わせ等を実施し、12月に体験会（3競技）を実施した。令和7年1月から地域クラブ活動として、4競技（バスケットボール・バドミントン・ソフトテニス・）また、鹿嶋市剣道連盟主体のかしま剣道教室も同月から活動を開始した。かしま地域クラブは、かしまスポーツクラブ関連の競技実践者を主に指導者として協力いただいており、今後も継続的に指導者募集を行っていく。参加者がまだまだ少ないが、参加生徒のつながりを通した生徒の理解促進にも注力していく。

また、かしま剣道教室のように連盟や協会等が主体となり、新たな受け皿になり得る関係団体へのアプローチも実施していき、生徒の選択肢の拡充に努めていき、参加者の増加に繋げていく。

●成果の評価

部活動に変わる新しい活動を開始するということで、当初の予定と大きく変わってしまった。今後は、より一層委託先や関係団体、学校との密な連携が必要になる。回数を重ねるごとに参加者が徐々にではあるが増えてきている。令和7年9月から休日の部活動が無くなるように進めているため、そこまで生徒への周知をSNS等を活用した広報活動に注力していく必要がある。

●今後に向けて

持続可能な活動とするためには、受益者負担でまかなうことを基本とした活動とする必要がある。参加費以外の収益（ふるさと納税・企業等からの協賛）について検討をしていく。

生徒から「楽しかった・またやりたい」などポジティブな声をたくさんいただいたため、活動内容は、生徒のニーズに合ったものを実施できたと認識している。活動をどのように周知していくか、地域クラブの認知をどのように広めるかなど広報活動に力を入れ、多くの生徒が参加できる地域クラブを展開していく。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

12月22日（日）に開催した、かしま地域クラブ体験会の募集を12月上旬から市内公立中学校の生徒へ電子端末へ送付。

地域クラブ参加者募集のチラシについては、市内小学6年生及び中学生へ紙媒体と電子端末への配布を学校を經由し実施した。

鹿嶋市地域クラブ体験会

日 時：12月22日（日）

午前の部：10時～12時
実施種目：ソフトテニス（上限30名）
午後の部：13時～15時
実施種目：バドミントン（上限20名）
卓 球（上限30名）

場 所：鹿嶋中学校（体育館・庭球場）

参加費：無料

参加申込方法：URLまたはQRコードより電子申請
（申込期限：12月17日（火）まで）
URL：<https://logoform.jp/form/kRr5/821121>

申込QRコードはこちら

【持ち物】
・ラケット
・競技シューズ
・タオル
・水分

地域クラブ活動に関する説明動画はこちらを
ご覧ください（約11分）

※午前の部ソフトテニスについては
雨天中止です。
実施可否は12月21日（土）13時に
態度決定し、かしまスポーツナビで
お知らせします。
かしまスポーツナビはこちら

問い合わせ先
鹿嶋市教育委員会事務局
スポーツ推進課
TEL：0299-82-2911（内561）
メールアドレス：
sports1@city.ibarakishima.lg.jp

主催：鹿嶋市教育委員会・NPO法人かしまスポーツクラブ

一度来て、新たな体験を!!

地域クラブ参加者募集
2月・3月限定 参加費無料

参加できる競技や日時、場所は裏面をご確認ください。
1回からの参加も大歓迎です！
新たな体験してみませんか？

【問合せ】
かしま地域クラブ事務局
（NPO法人かしまスポーツクラブ内）
担当：藤岡 晴希：090-8942-1526

2・3月体験会
申し込みはこちら
（Logoフォーム）

地域クラブの体験
についてはこちら
（管理アプリ Spm）

鹿嶋市は、子どもたちが「生涯にわたってスポーツ・文化芸術活動を楽しむ環境を作る」ため、地域クラブ活動を推進しています。
NPO法人かしまスポーツクラブでは卓球、バドミントン、バスケボール、ソフトテニスを
楽しむ場を用意しています。
2月と3月については無料で参加に寛ぎました。
ぜひ、この機会に新たな体験をしてください。1回だけの参加も可能です。

実施競技&スケジュール

【1回あたり3時間程度】

実施日	2/16（日）	2/22（土）	2/23（日）	3/16（日）	3/23（日）
卓球	13：00～ 鹿野中		9：00～ 鹿野中	9：00～ 鹿野中	9：00～ 鹿野中
バドミントン	13：00～ 鹿野中	13：00～ 大野中		13：00～ 鹿野中	13：00～ 鹿野中
バスケ	13：30～ 平井中	13：30～ 平井中		13：30～ 平井中	13：00～ 鹿野中
ソフトテニス	9：00～ 鹿野中		9：00～ 鹿野中	9：00～ 鹿野中	9：00～ 鹿野中

1回の練習メニュー例

【バドミントン】
ストレッチ
ランニング
フットワーク
基礎打ち・ノック
試合形式（シングルス・ダブルス）

【ソフトテニス】
フォアハンド2本打ち
バックハンド2本打ち
フォアボレー
バックボレー
ハーフボレー
サブプレッシャー
試合形式3セットマッチ

参加者の声

Aさん テニス
Bさん バドミントン

地域クラブ活動を通じて、学校とは異なる新しい友達と出会えました。楽しかったです。

指導者からのメッセージ

地域クラブでは楽しい体験が待っています。
基礎練習をはじめとした様々な練習メニューを通して、技術を磨きながら、思い思いの楽しみ方をしましょう。
皆さんとともに素晴らしい時間を過ごせることを楽しみにしています。

指導者
かしまスポーツクラブ
指導者

【生徒への参加啓発チラシ】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【バスケットボール】



【卓球・バドミントン】



【ソフトテニス】



【剣道】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

学校，スポーツ活動団体，教育委員会

●経過

令和5年度より検討委員会を設置し，運動・文化活動における地域クラブの実施に向けた検討を開始した。

●実施内容

令和6年12月に地域クラブ体験会の実施

令和7年1月から地域クラブ活動を開始

（バスケットボール・バドミントン・ソフトテニス・卓球）

鹿嶋市剣道連盟主体のかしま剣道教室も同月活動を開始

いずれの活動について市内外から参加可能なものとしている。

●実施にあたって生じた課題

- ・指導者の確保…指導者不足のため実施できない競技もあった
- ・参加生徒への周知方法…紙媒体や電子端末等を活用し，周知しているが参加する生徒があまり増えなかった
- ・持続可能な組織づくり…かしまスポーツクラブに委託しているが，今後競技が増えていく場合人員不足が課題となる
- ・道具の管理…各競技の道具を事務局で管理するにも場所が限られるため，学校施設等へ常設できないか協議が必要

●今後の展望

本市においては，令和7年8月末で休日部活動を実施しなくなる。年度当初より保護者の理解を得るために地域クラブの趣旨や事業説明について資料やPR動画を用いて説明を行う。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

時 期		令和6年12月頃まで	令和7年1月頃から 令和7年8月 まで	令和7年9月以降
学校 部活動	平日	今までどおりの部活動を実施		
	休日	今まで どおりの 部活動を 実施	学校部活動を実施して よいが、各部活動で地 域クラブ活動への移行 も検討する	<u>休日の学校部活動は 実施しない</u> ※ただし、部活動と して、休日に練習 試合や大会参加は 可能
地域 クラブ 活動	休日	地域クラブ 活動 実施の準備	準備ができた活動から地域クラブ活動を開始	

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 潮来市

自治体名：茨城県 潮来市

担当課名：教育委員会学校教育課

電話番号：0299-63-1111

1.自治体の基本情報

基本情報

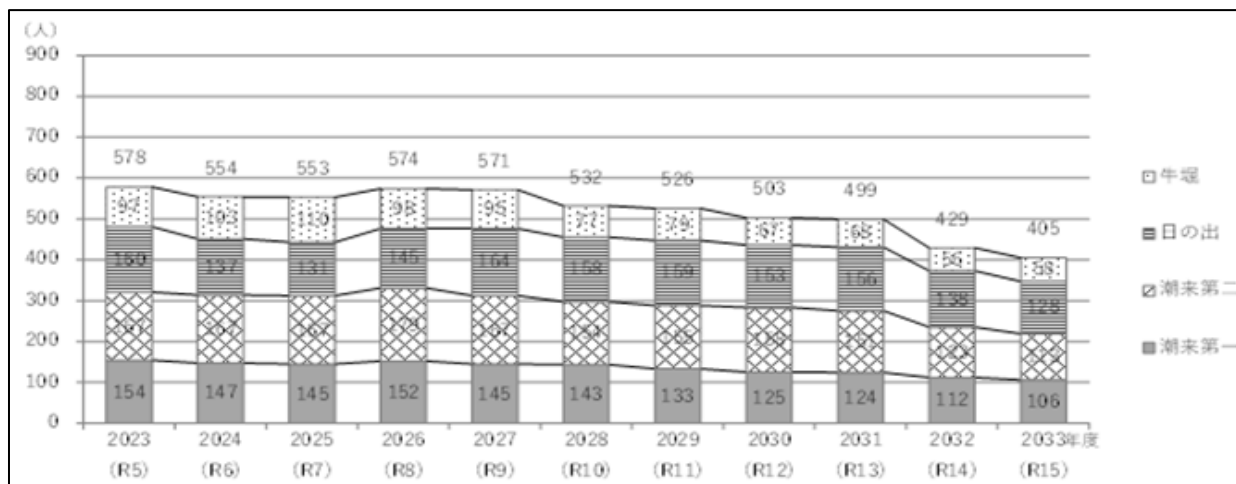
面積	総面積71.4km ²
人口	26,316人
公立中学校数	4校
公立中学校生徒数	555人
部活動数	34部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市においては、4校の公立中学校があり、生徒数555名で34部活動が活動している。部活動加入者は452名、103名の部活動未加入者の内、71名は外部のクラブに加入、32名は未加入である。部活動によっては、全ての学校に入っていないことともあるので、生徒によっては、希望する部活動に入れていないこともある。また、生徒数の減少により、学校単独で実施することができず、市内や市外の中学校と合同で

実施している部活動もある。教員の働き方改革の一環として、本市においても部活動地域移行をすすめることで、教員への業務負担の軽減を図る。また、生徒が希望する部活動に加入し、専門的な技術指導を受け、生涯にわたってスポーツ・文化芸術活動を楽しむことができるようにしていく必要がある。

潮来市立学校児童生徒数の推移

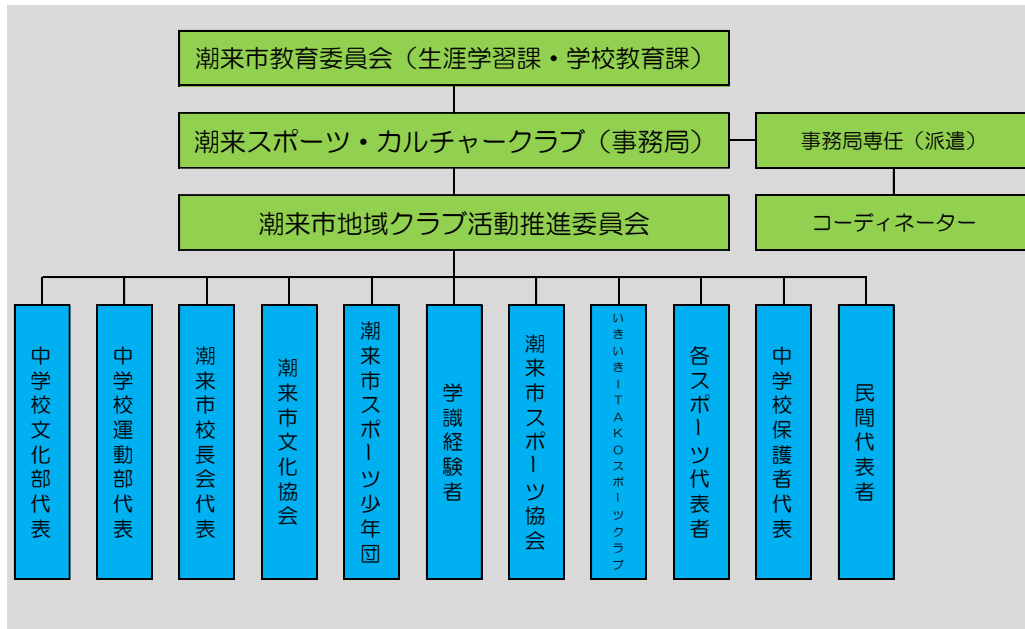


出典:第2期潮来市学校適正化計画

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課…学校との調整、連携
- ・生涯学習課…指導者との調整等

◎首長部局

- ・財政課…予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年4月	保護者説明会
令和6年4月～	市内中学校合同部活動の実施
令和6年5月	第1回検討委員会開催
令和6年8月	指導者研修会
令和6年8月	第2回検討委員会開催
令和7年1月	実証事業開始
令和7年2月	第1回地域クラブ活動推進委員会開催

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	4 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		
全体の指導者数	9人	全体の運営スタッフ数	9 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
潮来市剣道連盟少年部	任意団体	剣道	週 3回	午後	1年生5人 2年生5人 3年生5人	R7.1月 ～R7.2月	潮来第一中学校、 潮来第二中学校、 日の出中学校	9 人	9 人	月会費 -	参加なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 特になし

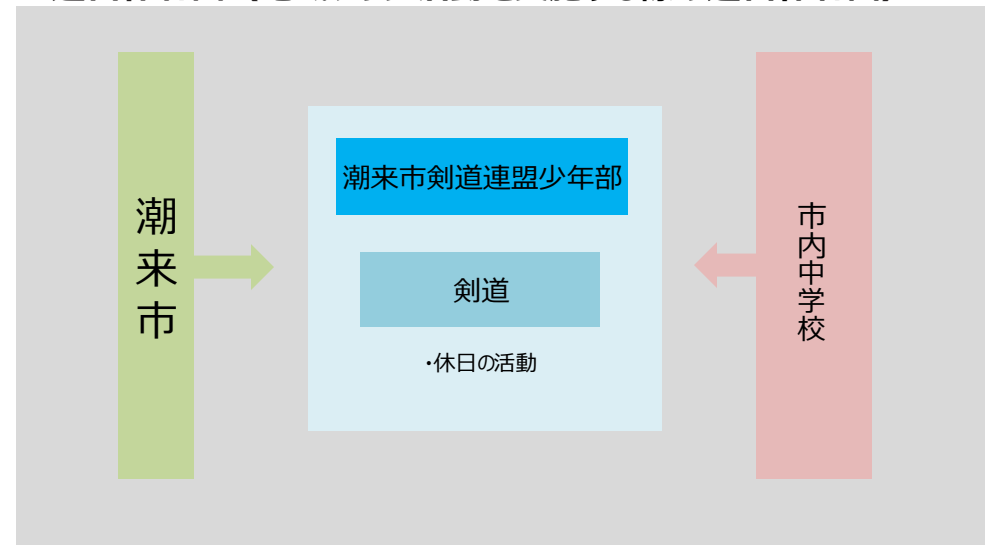
2.実証内容と成果

主な取組例

●潮来市剣道連盟少年部 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	剣道
運営団体名	潮来市剣道連盟少年部
期間と日数	野球：1月1日～2月28日 月3回程度
指導者の主な属性	競技経験者等
活動場所	潮来第一中学校、潮来第二中学校、日の出中学校
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等（月額）	-円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●指導者 9名

役割：休日の活動において、生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 潮来市教育委員会と学校代表、学識経験者、いきいきITAKOスポーツクラブ、スポーツ協会、スポーツ少年団、文化協会等の関係団体や保護者を含めた体制を整備し、計画的な移行を進める。
- 地域展開を見据えて活動する「潮来市剣道連盟少年部」と連携する。

取組の成果

- 推進体制として「潮来市地域クラブ活動推進委員会」を立上げた。
- 約2か月ではあったが、潮来市剣道連盟少年部の運営体制整備を整えることができた。
- 2月に開催した潮来市地域クラブ活動推進委員会のなかで、今回の取組を報告したところ、剣道部だけではなく、クラブチーム立上げの機運が高まっているところである。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 配置なし

今後の課題と対応方針

- 令和7年度も地域クラブ活動推進委員会に諮りながら、地域展開の取組を進める。
- 潮来市地域クラブ活動人材バンクなど積極的に活用しながら、人材の発掘をしていく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○地域移行を展開するため、これまでの検討組織である潮来市地域移行検討委員会に加え、新たに潮来市地域クラブ活動推進委員会を設置した。今年度は、第1回の会議を令和7年2月に開催した。

会議の中で、課題が明確になってきたため、その課題を各担当スポーツの推進委員と中学校部活動顧問と協議していく必要がある。

○実証事業として剣道部の休日の活動を実施した。この活動を他の協議に広げていく。

●成果の評価

○実証事業を実施した剣道以外の種目について、積極的に調整を進めていく。

●今後に向けて

○各団体と連携をし、また、潮来市地域クラブ活動人材バンク等を活用しながら、指導者の確保を進める。

2.実証内容と成果

参考資料（活動写真）



2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

市内中学校長、スポーツ協会、スポーツ少年団、各スポーツ代表者

●経過

令和4年11月に第1回目の潮来市部活動地域移行検討委員会を開催し、潮来市の現状と論点の整理の確認を行った。令和6年10月に推進計画を策定し、令和8年度から段階的に移行していく計画とした。また、可能な部活動から、休日部活動の地域クラブ化を進めていく。

令和6年度には、潮来市内各部活動における合同部活動の練習を実施し、剣道部においては、部活動地域展開に向けて先行的にクラブ化を実施した。

令和7年2月には、より具体的に地域展開を進めるために、潮来市地域クラブ活動推進委員会を開催した。

●実施にあたって生じた課題

○部活動の地域展開において、指導者の確保が重要な課題であるが、潮来市地域クラブ活動人材バンクを活用していく。

●今後の展開

○令和7年度も実証事業が可能な競技について実施・検証を行う。

○定期的に指導者の育成及び研修を実施し、指導者の資質・能力の向上に努める。

○地域クラブ活動が円滑に進むように、コーディネーターの配置を検討する。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ^o

令和6年度以降の「休日部活動の地域移行に向けた今後の見通し」(案)

年度	R 4	R 5	R 6	R 6 10月～	R 7
検討委員会	①・委嘱・諮問 ・現状と課題 ②・合同部活動について ・市内クラブ団体について ・検討事項について	③ (R6. 3月)・検討事項について ④ (R6. 5月) ・合同部活動について ・市内クラブ団体・モデル移行等について ⑤ (R6. 8月)・提言案検討 ※検討委員会 令和6年9月まで延長	推進協議会	・指導者報酬について ・運営団体の検討・設立 ・地域移行に向けた準備（指導者・施設設備の確保、規約・運営方針の策定、会費等）	
市内団体		・学校合同部活動への試行参加 ・（一部）部活動におけるモデルとなる休日地域移行			・（可能なところから）休日地域部活動の開始
中学校	・学校合同休日部活動に向けた環境整備	・休日学校合同部活動の一部実施 ・休日学校合同部活動の完全実施に向けた制度の検討	・休日学校合同部活動 ・拠点校部活動 ・段階的な休日学校		・教職員の兼職兼業の許可 ・休日地域部活動との連携
		・新部活動運営方針の遵守 ・地域指導者の参加			
市教委等	・検討委員会準備・運営	・指導者の確保 ・部活動指導員予算の拡充 ・兼職兼業制度の整備 ・地域・保護者への説明	・指導研修会の開催 ・支援策の策定		
国県等	・兼職兼業制度の整備 ・大会参加要件の見直し ・運営団体や家庭への支援 他				

令和 8年4月～ 潮来第一中学校・牛堀中学校統合

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 守谷市

自治体名：茨城県守谷市

担当課名：生涯学習課

電話番号：0297-21-2686

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	35.71 km ²
人口	70,900 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	1,913 人
部活動数	52 部活 (スポーツ42部活)
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状】

市内4中学校で、52の部活動（スポーツ：42（10種目）、文化：10（4種目））が活発に行われている。

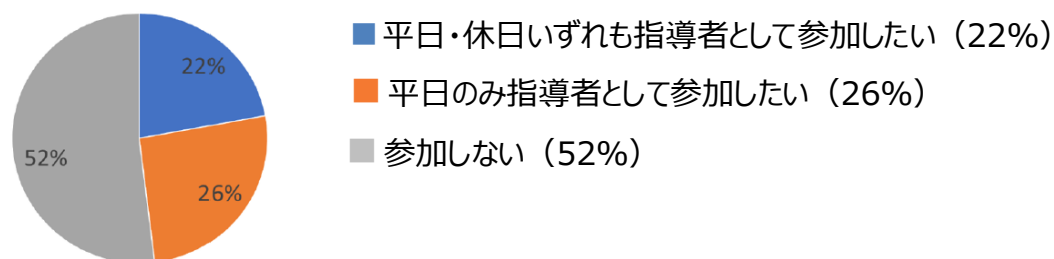
守谷市では、「守谷市部活動地域移行推進プラン」を令和5年3月に策定し、令和5年度から令和7年度の3年間で改革推進期間と定め、地域移行可能な休日の部活動から段階的に地域移行を行っている。

受け皿となる地域クラブについては、市からの業務委託により一般社団法人守谷市スポーツ協会が守谷スポーツ文化クラブ（MSCC）を運営しているが、地域移行を進めるうえで、コーディネーター、指導者等の人材確保、地域移行部活動数の増加に伴う運営経費の増大等が大きな課題となっている。

【課題】

- ・コーディネーター、指導者等の人材確保
- ・運営経費の増大
- ・活動費用の受益者負担の検討
- ・活動場所の確保（校舎使用におけるセキュリティ管理等）
- ・大会への参加・運営
- ・学校部活動の指導者である教員と休日クラブ活動の指導者との連携や情報共有

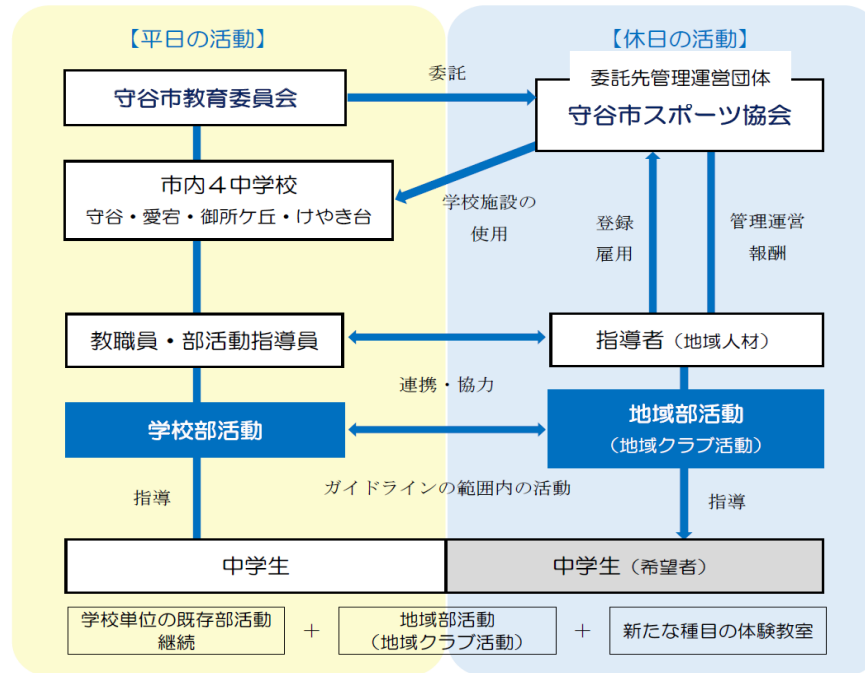
【地域移行した場合の教職員の参加意向アンケート結果（令和4年度実施）】



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

・運営方針・推進計画・ガイドライン策定、委託先管理運営団体の管理監督、運営協議会の設置

◎首長部局

・学校施設以外の公共施設の貸出し

年間の事業スケジュール

令和6年4月	令和6年度地域クラブ活動開始 保護者説明会 指導者募集
令和6年5月	保護者説明会
令和6年6月	学校部活動調査
令和6年7月	第1回部活動運営協議会
令和6年8月	危機管理マニュアル作成
令和6年9月	指導者研修会開催 （3月まで継続開催）
令和6年10月	活動体験会開催 （2月まで継続開催） クラウドファンディング開始
令和6年11月	部活動アンケート
令和6年12月	クラウドファンディング終了
令和7年1月	第2回部活動運営協議会
令和7年2月	政策課題事業報告書作成
令和7年3月	事業完了報告・成果報告書作成

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	4 校	実施した地域クラブ総数	19 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		19 クラブ（19 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		なし
全体の指導者数	42 人	全体の運営スタッフ数	5 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に （新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者 数	運営スタッフ 数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
守谷スポーツ文化クラブ	スポーツ協会	女子バレー、男子ソフトテニス、男子卓球（新）、女子卓球、柔道、サッカー、男子バスケットボール（新）、女子バスケットボール、男子ハンドボール、女子ハンドボール、男子バドミントン、女子バドミントン、野球（新）	月4～5 回程度 ※土・日 曜日開催	午前 8時～11時 午後 1時～4時 ※1活動3時間 ※季節により変更あり	中学 1年生173人 2年生196人 3年生200人	令和6年4月 1日から令和 7年3月31日	・守谷中学校 ・愛宕中学校 ・御所ヶ丘中学校 ・けやき台中学校	42 人 ※令和 7年3 月現在	5 人 （兼務なし） ※コーディネーター1人、現場責任者4人	無料	中体連：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- ジュニアスクール体験会（スイミング、テニス、サッカー）各種目 1 日で2回開催（午前の部、午後の部） 参加者54人
- ソフトテニス練習会・体験会、硬式テニス体験会 ソフトテニス、硬式テニス各 4 日間開催 参加者 のべ114人
- ダンス体験教室 3 クラスを3 日間開催 参加者 のべ171人

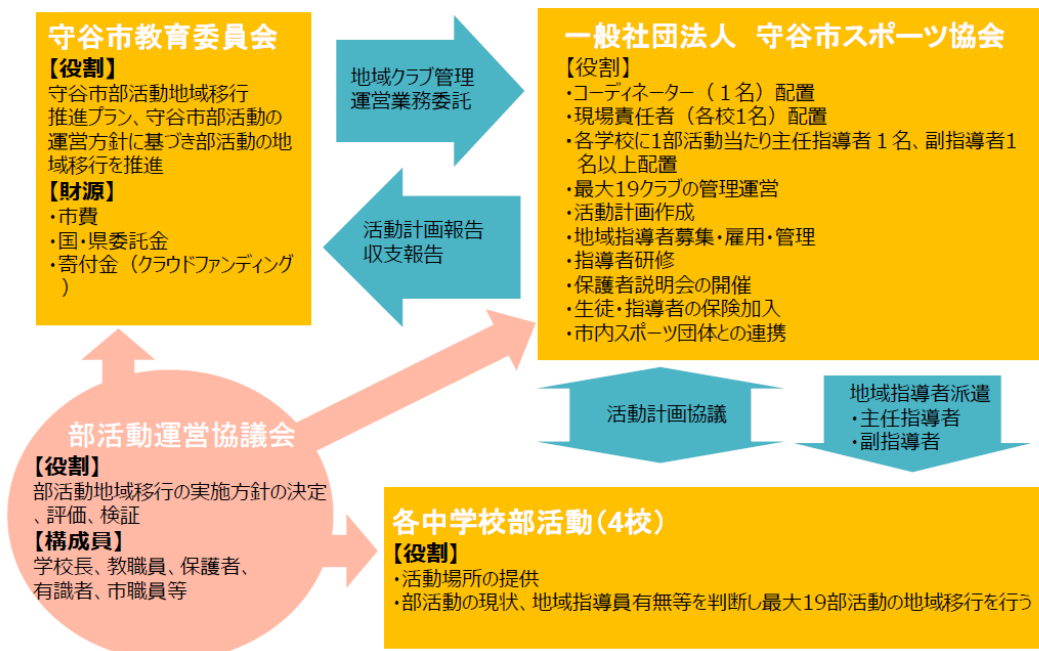
2.実証内容と成果

主な取組例

● 守谷スポーツ文化クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	女子バレー、男子ソフトテニス、男子卓球、女子卓球、柔道、サッカー、男子バスケットボール、女子バスケットボール、男子ハンドボール、女子ハンドボール、男子バドミントン、女子バドミントン、野球
運営団体名	一般社団法人 守谷市スポーツ協会
期間と日数	令和6年4月～令和7年3月 月4～5回程度（土・日曜日）
指導者の主な属性	会社員、自営業、社会人クラブチーム選手等
活動場所	守谷中学校、愛宕中学校、御所ヶ丘中学校、けやき台中学校
主な移動手段	自転車、徒歩及び保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	無料
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

● コーディネーター 1名

役割：市、学校との連絡調整、活動計画・報告書作成、事故対応等を行う

● 現場責任者 4名

役割：配置先学校との調整、指導者とりまとめ、事故対応等を行う

● 主任指導者・副指導者 42名

役割：指導内容の計画、生徒の指導、大会や練習試合への引率等を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

【実施主体の整備】

一般社団法人守谷市スポーツ協会に、守谷スポーツ文化クラブ（MSCC）の活動及び管理運営を全面委託し、休日部活動地域移行の受け皿となる地域クラブの体制を整備する。地域移行の実施状況については、地域部活動運営協議会において検証し、推進プランの見直しを行う。

【連絡調整】

指導者、生徒、保護者、顧問との連絡については、専用アプリ等を活用し個人情報に配慮した連絡体制を整備する。

コーディネーターの具体的な動きの実績

市との連絡調整、活動計画及び報告書の作成、学校との連絡調整、活動中の事故やけがへの対応及び報告、学校施設及び物品の使用管理、運営スタッフのとりまとめ、部活顧問への現状調査及びヒアリング

取組の成果

- ・地域移行することに対し、運営主体となる守谷市スポーツ協会から各部活動単位で保護者説明会を実施することで不安を解消できた。
- ・学校施設及び物品については部活動と同じように使用できるようになった。特に学校施設については、地域クラブが保健室を使えるように施設のセキュリティを見直した。
- ・部活動アプリの導入により、顧問と地域指導者、保護者との連絡体制を整備した。（情報共有）
- ・すべての指導員が不測の事態に対応できるよう、危機管理マニュアルを作成した。

今後の課題と対応方針

- ・実際の活動に合わせ危機管理マニュアルや連絡体制を随時見直していく。

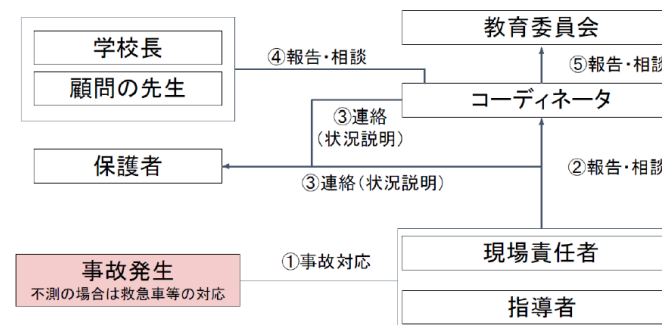
【緊急時の連絡体制】

3 緊急時の連絡体制

(1) 基本体制

一刻を争う場合は、この順番通りでなくてよい。まず生徒の命を最優先に動いていく。命の危険があると判断したときは、管理職への連絡は事後。

緊急時-連絡体制について



出典:MSCC危機管理マニュアル

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者研修の内容

- ・指導者として最低限必要な知識と技能を習得し、安全で効果的な活動を行うことのできる指導者を養成するため、コミュニケーション（子どもとの接し方）、コーチングの基礎、救命救急、身体のコンディショニング、ハラスメント等幅広い研修を実施した。
- ・実施にあたっては、より多くの指導者に研修参加の機会を与えるため、同一内容の研修を複数回実施した。
- ・運動中の熱中症リスクに対応するため、民間企業の協力により、熱中症対策のオンライン講座を実施した。

実施日	研修内容
令和6年5月～8月	熱中症対策アンバサダー講座（オンライン）
令和6年9月13日	危機管理（連絡体制、ケガ対応、不審者対応等）
令和6年9月20日	危機管理（連絡体制、ケガ対応、不審者対応等）
令和6年9月25日	講義A ①コミュニケーションの基本(生徒との接し方) ②ハラスメントとは
令和6年10月10日	1_救命救急 2_AED使い方 3_エピペン使い方
令和6年10月24日	講義B ①チームビルディングの構築とマネジメント ②コーチング法と勝利至上主義

実施日	研修内容
令和6年11月14日	講義A ①コミュニケーションの基本(生徒との接し方) ②ハラスメントとは
令和6年11月21日	1_救命救急 2_AED使い方 3_エピペン使い方
令和6年12月19日	講義B ①チームビルディングの構築とマネジメント ②コーチング法と勝利至上主義
令和6年12月27日	1_救命救急 2_AED使い方 3_エピペン使い方
令和6年11月26日	1_身体のコンディショニング 2_ケガをしない身体づくり 【あたまと身体で学ぶ】
令和7年1月23日	1_AED使い方
令和7年2月27日	1_身体のコンディショニング 2_ケガをしない身体づくり 【あたまと身体で学ぶ】

※3月まで実施予定 現在までの参加者 のべ56人

今後の課題と対応方針

- ・新人指導者とベテラン指導者（指導者のレベルにあわせた研修内容見直し）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化 / エ：面的・広域的な取組

取組事項（ウ、エ）

- ・スポーツ協会、スポーツ少年団、クラブチーム、民間事業者、文化協会など多様な実施主体が、社会体育・教育施設や文化施設を活用して、多様な活動に親しむ機会を確保する。
- ・指導者、参加者については守谷市内にこだわらず、県内、近県から人材確保ができるよう調整するとともに、県南西エリアの連携組織を生かし、情報共有を図っていく。
- ・地域の社会人クラブチームとの協力体制を構築し、スポーツ振興を図りながら有能な指導者人材を確保する。

取組の成果（ウ、エ）

- ・新たな活動機会や体験機会を創出するために、市内民間事業者の協力を得て、ダンス、ソフトテニス、硬式テニス、サッカー、スイミングの体験会を実施した。
- ・体験会については、市内だけでなく広域的に参加者を募る企画とした。
- ・地域の社会人クラブチームから、地域クラブの指導者を確保した。
- ・指導者を派遣しているクラブチームからの招待により、子どもたちが社会人クラブチームの試合観戦を行った。

今後の課題と対応方針（ウ、エ）

- ・体験会については、参加者や保護者から好評であったため、有料化を視野に入れ、今後もクラブ化を目標に継続実施していく。
- ・引き続き、社会人クラブチームからの指導者人材確保に努める。
- ・民間スポーツクラブにも協力を仰ぎ、指導者の確保に努める。

【社会人クラブチームの試合観戦案内】

令和6年9月3日

愛宕中学校長 様
サッカー部 様

FC ROWDY 事務局 石堂・沖山

FC ROWDY 応援バスツアーのお知らせ

日頃より、FC ROWDY MORIYA のお力添えを賜り、心よりお礼申し上げます。
さて、この度は愛宕中学校サッカー部コーチである、内野 隆雄が所属する社会人チーム、FC ROWDY MORIYA の試合《茨城県社会人サッカーリーグ1部リーグ・後期第8節》の応援バスツアーを開催することとなりました。
何かと慌ただしくご多忙な時期とは思いますが、ご参加願いますようお願い申し上げます。
当日はキッチンカー出店やイベントもご用意していますので、学校、保護者、生徒の皆様で ROWDY を応援し、楽しい思い出をまた一つ増やしていきましょう。
また、生徒には抽選4名、ボールパーソン9名のご協力をいただきたいと思います。

記

- 対象：愛宕中学校教員、MSC関係者、サッカー部生徒、サッカー部保護者
- 日時：9月29日(日) 10:00集合
- 集合場所：愛宕中学校
- 持ち物：昼食のご準備をお願いします。キッチンカーの出店あり。
- 役割：担架4名・ボールパーソン9名、その他の方はスタンドで応援
- 会場：ケースデンキスタジアム水戸
- 参加費：無料
- 申込締切：9月23日(月)

※乗車人数把握の為に記QRコードよりご登録をお願いいたします。

以上

茨城県社会人サッカーリーグ1部リーグ・後期第8節

FC ROWDY MORIYA VS IDENTITY MIRAI

応援バスツアー！

出発日：9月29日(日) 10:00 愛宕中学校

11:00 友部SA(休憩) →
11:30 ケーズデンキスタジアム水戸着 →
13:00 ケーズデンキスタジアム水戸にて試合観戦 →
16:00 ケーズデンキスタジアム水戸出発 →
17:30 愛宕中学校着

有限会社野村観光バス

※参加費：無料

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

中学生に限定しない幅広い年代の人々が興味や関心、競技レベルに合わせ活動可能な『総合型地域スポーツクラブ』の礎となる地域クラブづくりを推進する。

取組の成果

学校施設だけでなく、民間施設等も活用し、学校部活動にはない新たな種目のクラブ活動や体験教室等を実施し、多くの参加者に地域クラブの認知度向上を図れた。また、新たな種目のクラブ活動創出に向けての礎とすることができた。

今後の課題と対応方針

活動場所や指導者の人材確保等の課題を検討し、新たな活動種目を創設していく。

活動の詳細

参加人数	のべ 339 人	指導者数	10 人
属性	守谷スポーツ文化クラブ主催		
具体的な内容	●ジュニアスクール体験会（スイミング、テニス、サッカー）1日で午前、午後の2回開催 参加者54名 ●ソフトテニス練習会・体験会、硬式テニス体験会 各4日間開催 参加者 のべ114名 ●ダンス体験教室 3クラスを3日間開催 参加者 のべ171名		
参加者、関係者等の声	【ジュニアスクール体験会（スイミング、テニス、サッカー）】 ①プールが苦手だったが、今回参加して克服できた。子どもがとても楽しそうだった。 ②新しいスポーツをやってみたい。 ③初心者の体験会だったので安心して参加させることができた。 【ソフトテニス練習会・体験会、硬式テニス体験会】 ①前回（昨年）も参加し、今回も参加した保護者から、学校の部活とは違い、専門のコーチが指導してくれて、子供も毎回楽しみにしているので、年1回だけではなく、定期的（3か月に1回程度）に実施して欲しいとの声あり。 ②参加した中学生より、他校の人にも来ていたので、刺激になった。もっとこういった機会を増やして欲しい、回数を増やせないなら実施時間を部活動と同じぐらい（3時間程度）にして欲しいとの声あり。 ③保護者から、子供が中学校に進学したら部活動に入るか迷っていたが、体験会に参加し、楽しかったようで、中学に入ったらソフトテニス部に入部を決めたとの声あり。 【ダンス体験教室】 ①参加者は、とても楽しそうにダンスを楽しんでいました。 ②保護者からも、このような機会をたくさんもってほしいとの声を多くいただきました。		
運営経費	委託料 900,000円（1体験教室300,000円）		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等 / キ：学校施設の活用等

取組事項（カ）

地域移行したクラブの受益者負担については、地域移行した部活動と学校部活動との間に格差が生じないよう、また、経済的な理由で子どもたちが自由なスポーツ活動等をあきらめることがないように配慮する観点から、公的資金とのバランスを慎重に検討することとし、改革推進期間中（令和5年度～令和7年度）は徴収しない。

取組の成果（カ）

参加費や保険料は運営主体が負担し、競技用具等については学校の承諾を得て学校部活動と共有させてもらっているため、生徒は経済的負担を気にすることなく地域クラブに参加できている。

今後の課題と対応方針（カ）

- ・公的資金とのバランスを慎重に検討しながら、改革推進期間終了後の受益者負担について検討を進める。
- ・公的資金については、その財源についても検討を進める。
- ・経済的に困窮する家庭の支援についても検討を進める。
- ・休日クラブ活動の希望制への切替えタイミングとクラブ活動内容の整理

取組事項（キ）

地域クラブ活動を行う団体等に対して、学校施設を優先して開放するなど、負担軽減や利用しやすい環境づくりを行う。

取組の成果（キ）

- ・学校校舎のセキュリティを変更し、地域クラブ活動中の体調不良やケガの対応に学校の保健室を使用できるようにしている。
- ・通常の休日のクラブ活動の他、体験教室、講習会についても、学校体育施設を優先的に使用できるようにしている。

今後の課題と対応方針（キ）

- ・学校体育施設は、社会体育事業の一環で貸出しを行っており、市民で構成されたスポーツサークル団体やスポーツ少年団が定期的に使用し空き時間がほとんどない状況である。現在は、中学校を主体に地域クラブ活動を行っているが、今後は、小学校での地域クラブ活動を想定した調整についても検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

厳しい財政状況の中、地域移行する休日部活動を拡大していくにあたり、公的資金の財源として、ふるさと納税型のクラウドファンディングによる寄付金集めを実施した。ふるさと納税型クラウドファンディングについては、令和5年度から継続して実施している。

取組の成果

ふるさと納税型クラウドファンディング

※ポータルサイト運営会社に係る委託経費、返礼品に係る経費等（寄付金額の約50%は市負担で実施した。）

【名称】 守谷市地域クラブ応援サポート
【募集期間】 令和6年10月3日から令和6年12月31日まで（90日間）
※ふるさとチョイスの規定により募集期間は最長90日間
【目標金額】 5,000,000円
【寄付金額】 10,094,500円（支援者439人／達成率201.8%）
【寄付金の使途】 基金に積立て次年度以降の地域クラブ運営費に充当
【ポータルサイト運営会社】 株式会社トラストバンク（ふるさとチョイス運営）

令和5年度

【募集期間】 令和5年11月22日から令和6年2月19日（90日間）
【寄付金額】 5,691,000円（支援者237人／達成率113.8%）

ふるさと納税型クラウドファンディングの経費内訳

2024年6月に総務省に報告した令和5年度ふるさと納税経費49.4%から令和6年度の経費を寄付金の約50%と見積もった。

【参考】 令和5年度ふるさと納税経費内訳

項目	割合
返礼品等の調達に係る費用	28.5%
返礼品等の送付に係る費用	8.4%
広報に係る費用	0.6%
決済等に係る費用	1.7%
事務に係る費用	10.2%
合計	49.4%

出典：守谷市財政課

今後の課題と対応方針

ふるさと納税型クラウドファンディングについては、令和5年度及び令和6年度の2年間継続して実施したが、ともに目標金額を上回る寄付を集めることができた。寄付金という性質上、安定した財源とすることができるかは、まだ検証が必要であるが、現在のふるさと納税制度が継続されるのであれば、当面の間、部活動地域移行のために投入する公的資金の財源として活用することとする。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年度は、「守谷市部活動地域移行推進プラン」の改革推進期間（令和5年度～令和7年度）の中間年となるが、地域移行可能な休日の部活動から段階的に地域移行を行うという基本方針に従い、令和5年度12部活動、令和6年度19部活動と順調に地域移行数を増やすことができている。

地域移行の運営主体となる守谷市スポーツ協会においても、コーディネーター・指導者等の人材確保、運営経費の増大、活動費用の受益者負担の検討等の課題はあるが、地域移行の拡大に向け、保護者説明会や生徒・保護者へのアンケートを実施し、子どもたちの気持ちを大切にしながら地域移行を実践してきている。実際の活動においても、指導者研修の実施や「危機管理マニュアル」の策定など、安全で効果的なクラブ活動を心掛け、学校部活動以上の充実した活動を行いながら、既存の部活動にはなかった新しい種目の体験会等を積極的に開催するなど、活発な運営が行えている。

●成果の評価

・「守谷市部活動地域移行推進プラン」に基づき、順調に休日部活動の地域移行を進めながら、地域移行における課題を解決し、運営体制の礎を築けている。

地域移行した部活動の割合 約45.2%

地域移行した部活動 19部活動 / スポーツ系部活動 42部活

・現在の学校部活動の延長としての地域移行を推進していくためには、多くの指導者人材を確保しなければならず、運営経費も増大してしまうことから、今のような方法では休日学校部活動の完全地域移行を実現することは困難であることがわかってきた。

●今後に向けて

- ・経済的困窮世帯等に配慮した受益者負担を検討する。
- ・地域クラブ活動を支える公的資金の財源について、ふるさと納税型クラウドファンディングの実証を継続しながら、企業版ふるさと納税等の新たな財源を積極的に検討する。
- ・令和7年度は、改革推進期間（令和5年度～令和7年度）の最終年度となることから、地域クラブの運営等に関する課題の検証を進め、令和8年度以降の地域移行プランを検討する。

2.実証内容と成果②

地域クラブ移行のためのアンケート結果

●アンケート

令和9年度から中学校体育連盟が主催する全国中学校ハンドボール大会が廃止されることに伴い、令和7年度ハンドボール地域クラブ設立に向けてアンケートを実施

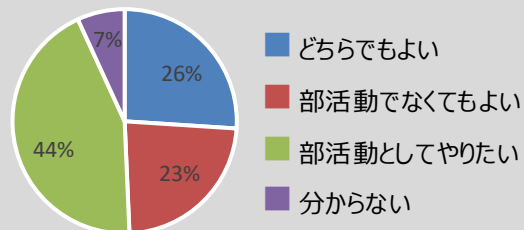
【対象】 市内中学校ハンドボール部（男女）生徒、保護者 73名

【実施】 令和6年11月

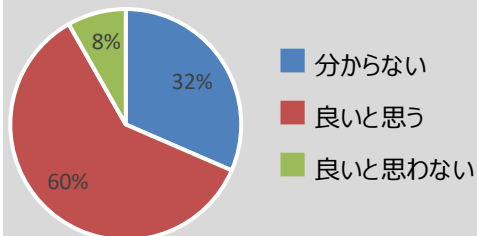
●アンケート結果抜粋

生徒への質問

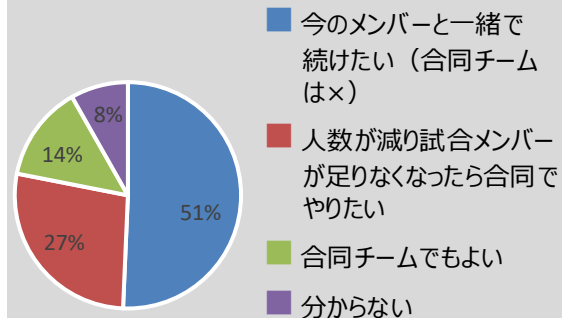
Q.ハンドボールが出来る環境（クラブ）があれば、学校部活動ではなくても良いと思いますか？



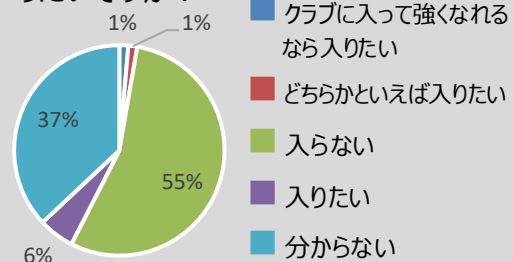
Q.他校や他市の生徒と一緒に活動できるクラブに入ることができたら良いと思いますか？



Q.チームメンバーについて

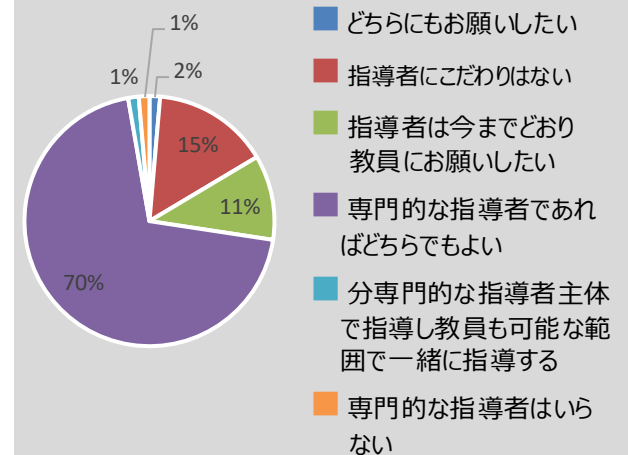


Q.自分が入りたいと思うクラブが見つかったら、今のチームを離れ、そのチームに入りたいですか？



保護者への質問

Q.地域クラブの指導者はどういう方（教員の兼務、専門的な指導者）が良いかお聞きます。



2.実証内容と成果③

MSCC危機管理マニュアル内容（目次）

MSCC危機管理マニュアル

本マニュアルはMSCC（守谷スポーツ文化クラブ）の危機管理のために作成したものであり、学校の危機管理マニュアルに準じて作成しております。学校において見直された部分については、随時見直しを行っていきます。



危機管理

目次

1 事故防止のために	1
◆危機管理マニュアルの目的と位置付け	1
◆危機管理の基本方針	1
◆MSCCスタッフ（指導者、現場責任者等）・関係者等への周知等	2
◆マニュアルの保管方法	3
◆マニュアルの見直しと改善	3
2 事前の危機管理	4
◆守谷市の現状	4
◆危機管理の前提となる危機事象等	4
◆平常時の危機管理体制	9
◆犯罪被害防止対策	9
◆生徒の安全管理・熱中症対策の徹底	10
◆WBGT計測器を使用時の対策	11
◆施設設備の安全管理	11
◆スタッフの安全管理	12
3 緊急時の連絡体制	14
(1) 基本体制	14
(2) 注意事項	14
(3) 救急車の呼び方	15
(4) 医療機関及び連絡先	15
①＜総合病院、内科、小児科等＞	16
②＜眼科、耳鼻咽喉科＞	17
③＜歯科＞	17
④＜整形外科＞	18
⑤＜整形外科（接骨院）＞	18
4 発生時（初動）の危機管理	20
(1) 不審な人物来校時の対応	20



危機管理

(2) -1 不審者・変質者等の対応【登下校】	20
(2) -2 不審者・変質者等の対応【建物内への侵入】	21
(2) -3 不審者・変質者等の対応【グラウンドへの侵入】	22
(3) 活動中の事故対応フロー	23
(4) 一次救命処置対応	24
(5) 心停止の救命処置対応	25
(6) 頭頸部外傷への対応	26
(7) 登下校中の事故対応	27
(8) 伝染病・食中毒への対応	28
(9) アレルギー症状への対応（エビベン使用）	29
(10) 気道異物除去への対応	30
(11) -1 熱中症発生時の対応	33
(11) -2 熱中症対策について	34
(11) -3 熱中症のリスクを踏まえた対応	34
(12) 火災発生時の対応	35
(13) 地震発生時の対応	37
(14) 竜巻等、天候急変時（大雨等）の対応	38
1 避難の指示	40
※目視で雷を確認できるような緊急の場合は、発見者が避難指示を出す。その後、現場責任者へ報告する。	40
・屋外にいる場合は速やかに屋内に避難する。	40
・雷が鳴り止むまで屋内に待機させる。	40
2 情報の確認、学校待機の判断（現場責任者）	40
・新しい雷雲の接近に注意し、気象情報で安全を確認して活動が再開できるかどうか判断する。	40
3 下校、保護者への引き渡しの判断（現場責任者）	40
・下校時刻になっても雷が鳴り止まないときは、学校に待機させる旨、保護者にメール等で連絡する。	40



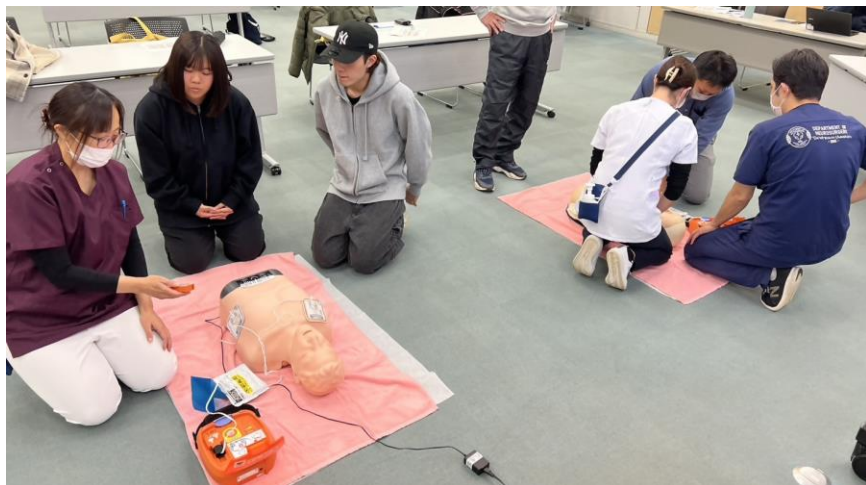
危機管理

・気象情報を確認し、下校が難しいと判断されるときは、保護者に引き渡しの連絡をする。	40
・引き渡し完了するまで、学校で待機させる。	40
・下校の状況を学校管理職及び市教委等へ連絡する。	40
(15) 災害時の生徒の下校について	41
(16) 大会等出先での大地震・津波への対応	42
(17) 盗難・器物破損事故への対応	44
(18) -1 喧嘩、いじめなどへの対応	45
(18) -2 いじめ問題への対応《学校での対応》 参考資料	46
(19) 体罰発生時の対応	47
(20) スタッフの交通事故、負傷事故発生時の対応	48
(21) 保護者とのトラブルの対応	49
(22) ハラスメント行為への対応	50
(23) インターネットウイルスへの対応	51
(24) -1 弾道ミサイル飛来時の対応【事前・在校時】	52
(24) -2 弾道ミサイル飛来時の対応【登校前、登下校時】	53
(25) 練習試合・大会等、校外活動における生徒の安全管理の徹底	54
5 付録	
・MSCC版 台風（大雨）想定 タイムライン（令和6年度作成予定）	

出典: MSCC危機管理マニュアル

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【指導者講習会（救命救急）】



【指導者講習会（身体のコディショニング）】

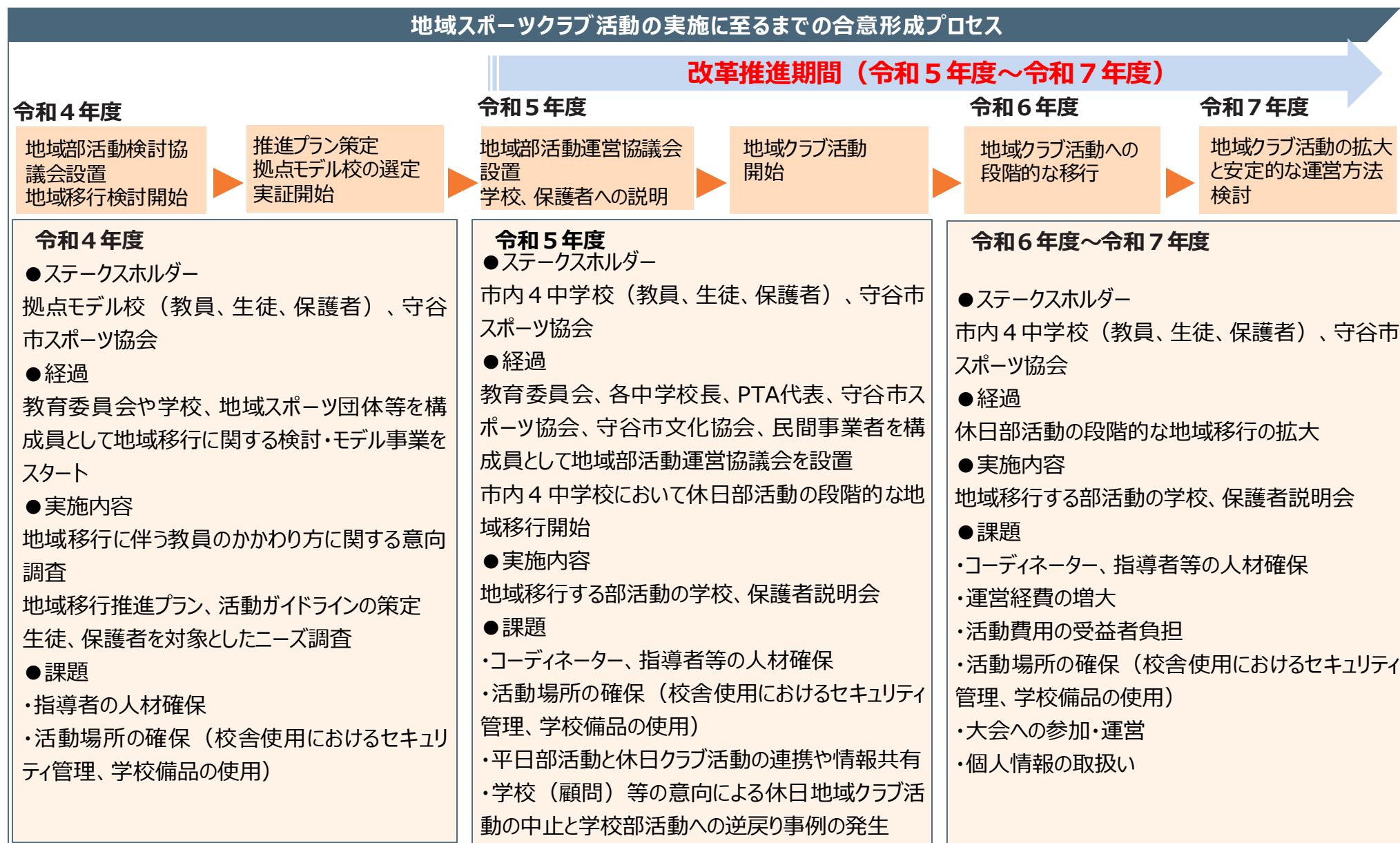


【地域クラブ活動（卓球）】



【体験教室（ダンス）】

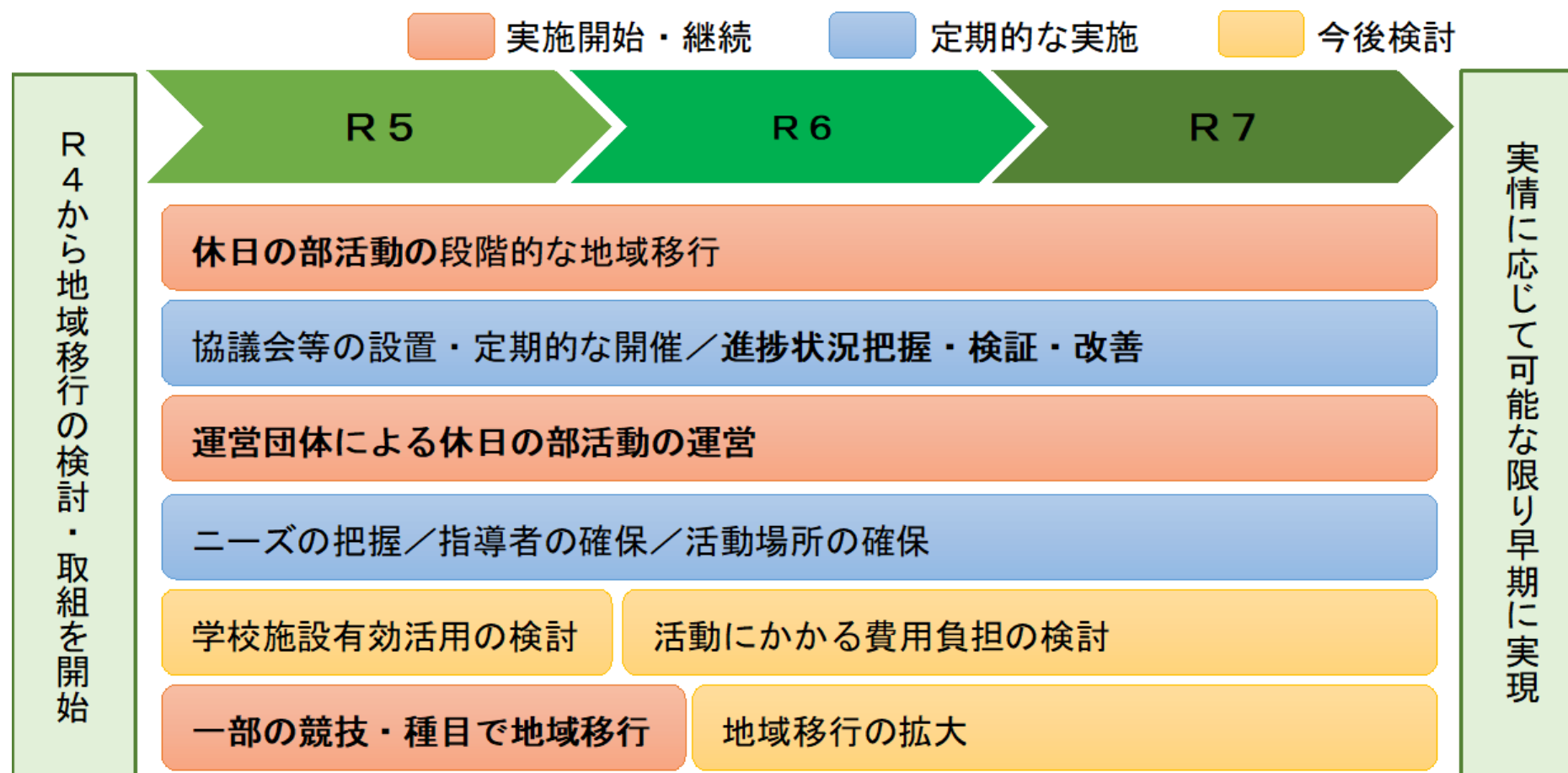
2.実証内容と成果



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

※守谷市部活動地域移行推進プランの改革推進期間（令和5年度～令和7年度）



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 那珂市

自治体名：茨城県那珂市

担当課名：学校教育課

電話番号：029-298-1111

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	97.82 km ²
人口	53,101 人
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	1,259 人
部活動数	42 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

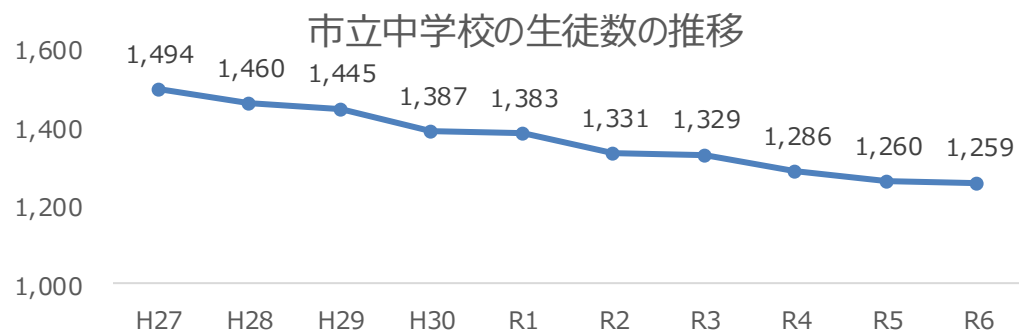
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

市内の中学校 5 校の生徒数は、令和 6 年は 1,259 人となっており、10 年前の平成 27 年の 1,494 人から 16% 程度減少している。生徒数の減少により、団体競技の部活動が成り立たないことや、限られた部活動しか維持できないなどの課題が生じている。

令和 6 年度の市内中学校の部活動数は、運動部 42 部、文化部 8 部、合わせて 50 部となっており、10 年前の平成 27 年の運動部 46 部、文化部 8 部、合わせて 54 部あったものが、廃部や休部により 4 部減少している。さらに今年度運動部 1 部が廃部となっている。

部員数が減少しているに伴い、野球やサッカーなどについては他校と合同で大会へ出場したり、拠点校方式として他校の生徒を受け入れている。また、部活動を理由に学区外へ通うケース、自分が希望しない部活動へ入部するなど、各校における部活動の選択肢が減っている。

令和 6 年度には、軟式野球部の休日の活動について地域の野球教室と連携して地域移行を開始したところであり、令和 7 年度は引き続き軟式野球をはじめ、今後他の競技へ拡大していく必要がある。

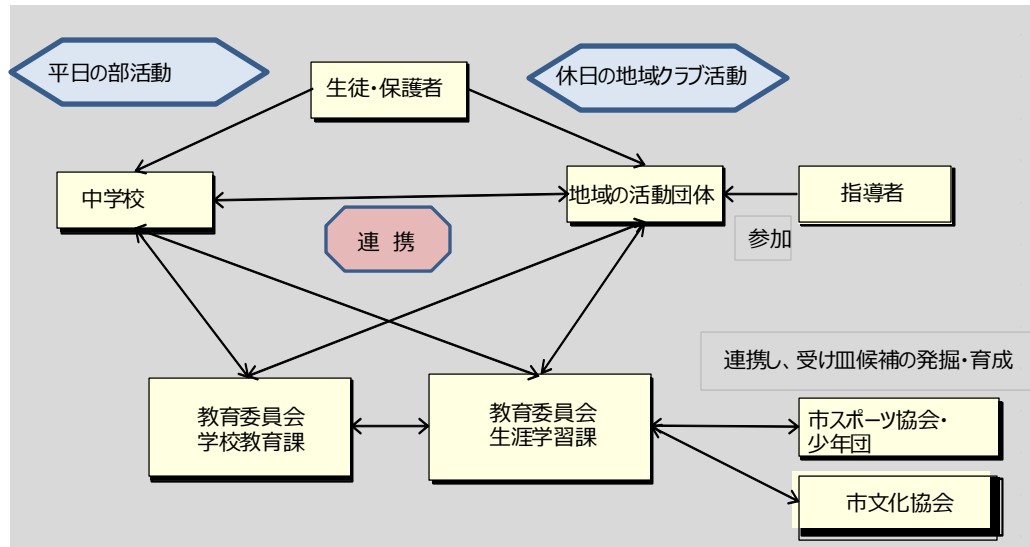


出典：那珂市部活動地域移行推進計画

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・中学校と各種関係団体とのコーディネート
- ・各会議体の事務局
- ・対外的な情報発信
- ・スポーツ・文化団体との情報連携の窓口
- ・各団体の現状や意向の把握
- ・地域資源の発掘

◎首長部局

（スポーツ・文化主管課は教育委員会の所属）

年間の事業スケジュール

令和6年5月	第1回検討委員会開催
令和6年5月	地域移行アンケート調査
令和6年7月	第2回検討委員会開催
令和6年7月	第1回推進協議会開催（設立）
令和6年8月	保護者説明会開催（実証事業対象部）
令和6年10月	実証事業開始
令和7年1月	スポーツ関係団体アンケート調査
令和7年2月	第2回検討委員会開催
令和7年2月	第2回推進協議会開催

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（4 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	7 人	全体の運営スタッフ数	7 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
那珂市軟式野球教室 N B F J	任意団体	軟式野球	週 1 回	午後	1 年生8人 2 年生10人	R6.10月 ～R7.2月	なか LuckyF M公園、第三中学校	7 人	7 人 （内、兼務 0 人）	月会費 3000 円	参加なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 特になし

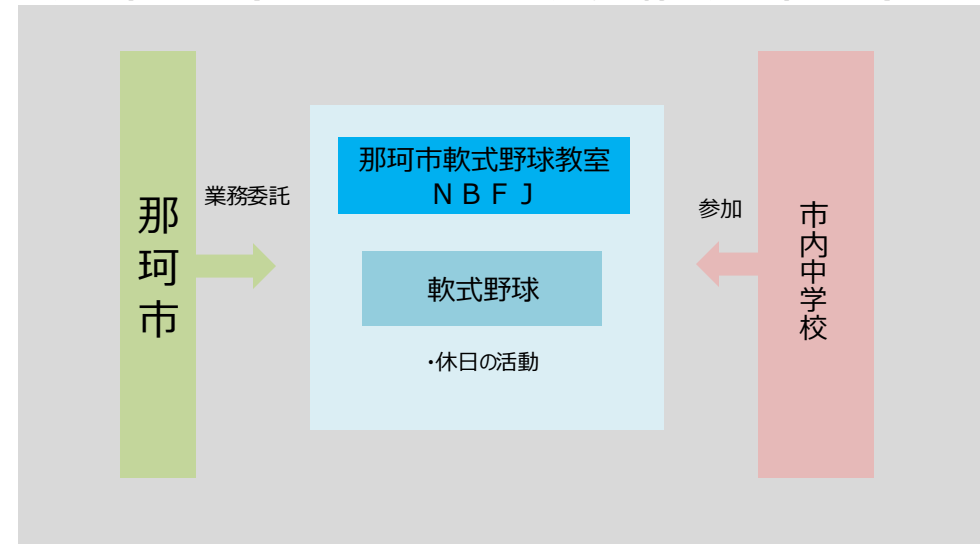
2.実証内容と成果

主な取組例

●那珂市軟式野球教室NBFJ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球
運営団体名	那珂市軟式野球教室NBFJ
期間と日数	野球：10月1日～2月28日 月4回程度
指導者の主な属性	競技経験者等
活動場所	なかLuckyFM公園、第三中学校
主な移動手段	保護者送迎、自転車
1人あたりの参加会費等（月額）	3,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●指導者 7 名

役割：休日の活動において、生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

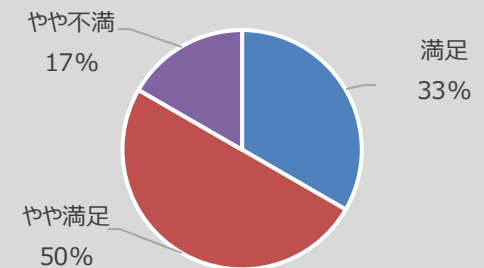
取組事項

- ・市教育委員会と学校代表による検討委員会での検討に加え、スポーツ協会、スポーツ少年団、文化協会等の関係団体や保護者も含めた推進体制を整備し、情報連携や地域移行推進計画策定を通して課題を共有し、具体的・計画的な移行を進めている。
- ・地域移行を見据えて活動する「那珂市軟式野球教室 N B F J」と連携し、令和6年度中に全中学校の野球部の地域移行を目指す。また、移行過程を市内のスポーツ団体と共有する。

取組の成果

- ・推進体制として「地域移行推進協議会」を立ち上げ、推進計画の策定が完了した。
- ・10月から休日の地域移行を開始したところ、野球部所属の生徒の約6割が参加した。
- ・参加した生徒18人へのアンケート調査を行った結果、回答者の83%が概ね満足している。
- ・野球部の顧問教諭へのアンケートでは、全員が業務負担が軽減されたと回答している。
- ・活動団体の指導員からは、活動時間が足りないとの意見がでている。

休日の活動は、満足していますか



出典：参加者アンケート

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・配置なし

今後の課題と対応方針

- ・次年度も地域移行推進協議会に諮りながら、移行の取組を進める。
- ・推進計画に示したスケジュールでの移行を推進する。
- ・他の競技について、活動団体と連携して段階的に移行を進める。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- ・児童生徒や教員へのアンケートを行い、市の地域移行の指針となる地域移行推進計画の策定を行った。計画では、本市の移行へ向けた考え方として、地域の活動団体等の資源を生かして段階的に進めることとし、令和9年度中に休日の活動の完全移行を目指すこととした。
- ・地域移行を推進するため、これまでの検討組織である地域移行検討委員会に加え、新たに市部活動地域移行推進協議会を設置した。今年度は、3回の会議開催を予定していたが、2回の開催となった。
- ・モデルとして野球部の休日の活動を、地域の活動団体に移行した。年度当初には、9月から移行する予定としていたが、保護者への情報周知が不足していたこともあり、移行開始時期が遅れることとなった。
- ・市内のスポーツ活動団体へ、地域移行に関する意向についてアンケート調査を行った。その結果を踏まえ、受け入れ可否を含め、今後意見交換等を行うこととしている。

●成果の評価

- ・推進計画において、地域の活動団体等の資源を活用して移行を進めることとしているが、スポーツ団体の意向確認作業が遅れている。
- ・モデル事業として実施した軟式野球の活動に参加した生徒からは、休日の活動への満足度は高い結果が得られた。
- ・モデル事業として軟式野球の休日の活動の移行を開始したが、活動団体の指導者から、部活動の運営方針に定められた練習時間では、技術の習得などが十分にできないといった意見も出されており、次年度の休日の移行について調整が必要となっている。
- ・モデルとして実施した野球以外の種目について、地域の活動団体との受け入れ調整が進んでいない。

●今後に向けて

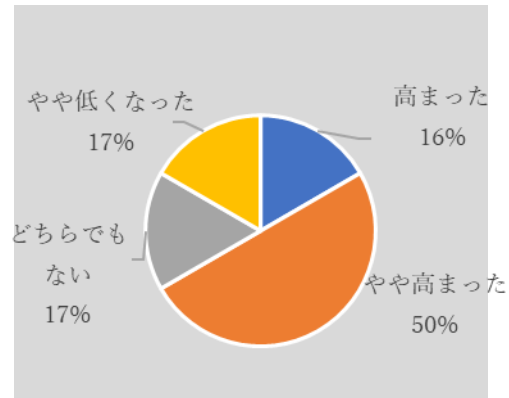
- ・モデルとして実施した軟式野球の活動については、次年度は移行の方法等について変更も視野に調整する必要がある。
- ・市内のスポーツ団体からのアンケートでは、地域移行にかかる運営費用やスタッフの確保、活動場所などが課題と考える団体も多く、意見交換等を行いながら移行可能な方法を探っていく必要がある。

2.実証内容と成果②

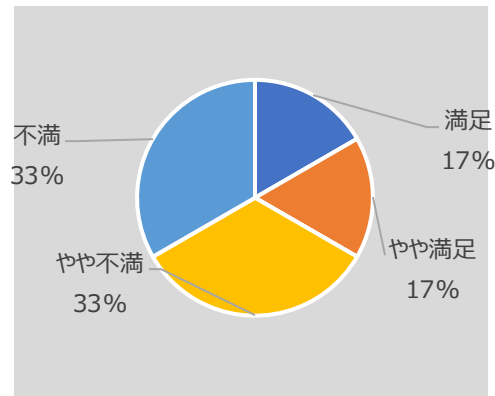
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

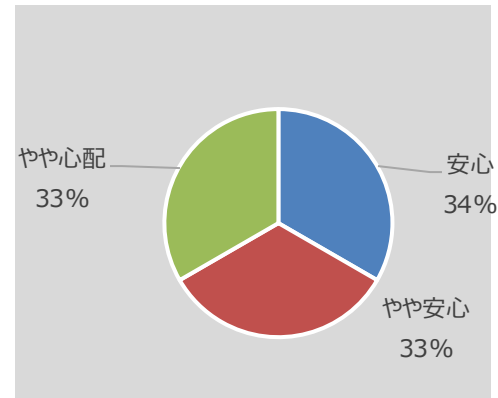
Q平日の部活動への参加意欲が変わりましたか（参加生徒）



Q休日の活動の時間は、指導者として満足していますか（指導者）



Q地域移行後の休日の活動の安全面について、どのように感じていますか（保護者）



Q今後、他種目の部活動も地域移行していくにあたり、何が課題だと考えますか（複数回答）（顧問の教員）



●参加者の声

中学生

- ・休日の活動に参加していない生徒からの回答は、「ゆっくり過ごしたい」、「趣味などやりたいことが別にある」などが多い。
- ・参加生徒の約8割が、休日の活動で、（他の学校を含む）友達と楽しく活動ができていると回答。

保護者

- ・地域移行後の休日の活動について、全体的な満足度では、6割を超える保護者が不満と回答。
- ・送迎について6割以上が負担を感じていると回答。

指導者

- ・練習時間を伸ばしてほしい。
- ・自分の意思で指導しており、謝金は不要。
- ・練習量が足りず、他の市町村の生徒と差がでる。
- ・月謝等の保護者負担を減らしたい。

顧問教員

- ・合同で行っている学校同士のチームとしての連携・コミュニケーションが不足する。
- ・受け皿となる団体があるせいで学校での部活動ができなくなったとの印象を保護者や生徒にもたれてしまう。

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）

【指導の様子】



2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

学校、スポーツ協会、競技団体、市教委

●経過

令和5年度から検討委員会を設置し、地域移行の進め方やモデル事業の取組等について検討を開始した。令和6年度には、スポーツ関係団体等外部の委員を含めた推進協議会を設置するとともに、地域移行の指針となる推進計画を策定した。モデル事業については、令和6年度の後半から、軟式野球の休日の活動を移行した。

●実施内容

モデル事業として、野球部は学校での休日の活動を取りやめ、地域の活動団体に委託し、希望する生徒が任意で参加しての活動として、先行実施を行った。活動は週1回で、市のスポーツ施設や中学校で行った。参加率は、野球部所属の部員の約6割となった。

また、市内スポーツ活動団体への地域移行に関するアンケートを実施し、各団体の意向を調査した。

●実施にあたって生じた課題

- ・保護者からは、活動場所への送迎について負担を感じるとの声がある。今後、競技種目を拡大して移行する際も、同様に課題となると考えられる。
- ・指導者からは、活動時間が短いため、技術の向上などの点で、他の自治体の生徒との差がでることへの不安の声がある。
- ・他の競技と移行するタイミングが異なることで、生徒や保護者の不公平感につながるのではといった意見もある。

●今後の展開

- ・次年度も、モデル事業が可能な競技について実施・検証を行う。
- ・学校で、単独での活動が難しい部については、合同部活動の検討や実施を行う。
- ・市内スポーツ活動団体への説明会や意見交換等を行いながら、環境や条件が整った部活動については、休日の移行を開始し、段階的に拡大を図っていく。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ^o

